

発刊にあたり

前校長（現兵庫県教育委員会事務局義務教育課参事）
小林 庶 良

人生一寸先は闇”と申しますが、「こんなことが起こっていいのか」とすら思われる天変地異が、一瞬にして五千五百余人の尊い命と幸せな家庭、莫大な財産を奪い去り、県都である神戸をはじめ、淡路島北部から兵庫県南東部の都市機能に壊滅的な打撃をもたらしました。

その日、平成7年1月17日午前5時46分、地底から突き上げるような激しい衝撃と、連続したかって体験し得なかった横揺れに全くなすすべもなく事がおさまるのを待ちました。昨年11月始め頃より起こっていた「猪名川群発地震」のトドメかと咄嗟に判断したものでした。直後はまだ電話が通じており、一番に出勤したK教諭からの連絡を受け、野依教頭と電話で打合せた後急いで車に乗り込み学校へ向かいました。西谷の農家の家並や道路には何の変化もなく、安堵しながら中国自動車道路をくぐり抜けたあたりから、木造家屋に異常が見えはじめ、川面近辺では、完全に倒壊した家屋の周辺で、何人もの人達が全く無言のまま茫然と立ちつくしている様を見て、被害が尋常でない事を認識したものでした。学校に到着すると、1号棟を中心としてガス臭におおわれ、地盤沈下、渡り廊下ジョイント部の損傷、3・4号棟の柱の亀裂、校舎内の備品の倒壊等見るも無惨な状況でありました。一日中、各地の惨状を報道し続けるテレビの画面を見るにつけ、児童生徒と教職員の無事をひたすら祈り続けました。日毎に数を増してきた出勤する先生方に、児童生徒と教職員の安否確認を急いでもらいました。職員室の黒板に確認された人達の氏名を順次書きあげる作業が続きました。結果として、児童生徒と教職員に1名の死亡者も出なかった事が判明した時の喜びは何にも例えようのないものでありました。ただ、宮地友一君が重傷を負ったことには胸が痛みました。3月18日に、「りんくうタウン」の泉州救命救急センターで卒業証書を手渡した日は素晴らしい快晴でありましたが、私の胸の中にはとめどもなく熱い涙が流れ続けました。しかし、これ程激甚な被害を受けた地域を校区とする大規模校でありながら、ほとんどの児童生徒が無傷に近い状態を保ち得たことを思う時、各家庭でご両親はじめご家族の皆さんが必死で守って下さったであろうそのお姿が目あたりに浮かぶ思いでありました。

学校では復旧作業を続け、連日、緊急対策会議を開いて授業再開への綿密なスケジュールを練りました。県内外の多くの学校から心暖まる支援の手が差し伸べられたことに深く感謝したことでした。兵庫県企業庁猪名川広域水道事務所からは、大量の飲料水を頂戴しました。「地域教室」の開設についても、全く急なお願いであったにもかかわらず、三田谷治療教育院、ワークプラザ宝塚、尼崎中央公民館・園田公民館、県立総合体育館が、二つ返事でご協力頂きました。こうした多くの方々の深いご理解とご協力によってこの難事を何とかくぐり抜け、やっと年度末を迎えることが出来ました。加えて、最大の原動力は、昼夜を問わず走り続けて下さった阪神養護の教職員の皆さん。次々の学校の決定にご理解とご協力を頂いた育友会、保護者の皆さんであったことは言うまでもありません。改めて深甚なる感謝を申し上げます。学校の復興と児童生徒の心のケアの問題を残しつつ、この度心ならずも転勤の命を受けました。各ご家庭と阪神養護学校の一日も早い完全復興を祈念しております。

復興半ばの本校に着任して

校長 小島 洋 知

未曾有の大災害をもたらした阪神・淡路大震災から5カ月が過ぎました。5500人を超す尊い命を失い、瓦礫の山と化した兵庫県南東部地方も春が過ぎ、夏を迎えるに当たり、神戸周辺の鉄道網の復旧とともに復興の度合もかなり進んで参りました。

私は本年4月小林前校長の後任として着任しましたが、校舎、プール等被災した学校の施設設備には応急修理が施され、一応使用可能な状態になっており、学校の教育活動も平常に近い状態に戻りつつありました。安否を気づかう家庭訪問、ライフラインの復旧、校舎の破損箇所の応急処置、地域教室の開設等、地震発生以来学校再開に至るまでの小林前校長初め全職員・育友会・地域の方々等関係者の献身的なご努力を聞くにつけ、頭の下がる思いがします。また、被災児童生徒の一時転校を気持ちよく受け入れて下さった近隣府県の養護学校長のご配慮、並びに全国の盲・聾・養護学校教職員や児童・生徒の皆様を初め、あらゆる方面の方々からいただいた義援金、救援物資、激励の手紙等でのご支援に深く感謝致します。

さて、平成7年度は震災の関係で家庭の状況が変わり、転校を余儀なくされたり、入学後転校せざるを得なかった児童生徒があり、当初の予定より児童生徒が14名少なくなり、計248名の児童生徒で授業が始まりました。4月から約2カ月間は、神戸方面への幹線道路通行禁止による交通渋滞のため、スクールバスの運行が困難を極めました。授業開始時間は恒常的に遅れていました。普段の月・水・金2回下校も当分は無理な状況で、下校時刻を一斉に2時にせざるを得ない状況でした。スクールバス路線も再検討し、試走を繰り返すなど教職員や関係者の尽力、保護者の理解と協力、加えて地域の方々のご援助のおかげで、6月12日(月)になり従来の1時発を10分早めた下校1便と、3時発の2便の2回下校が可能となりました。高等部、小学部、中学部と続いた宿泊学習も無事終わり、他の学校行事も順調に消化できました。子どもたちもごく普通に学校生活を送っているように思えましたが、学期も後半のコーナーにさしかかった、7月4日3号棟の高架水槽が破裂し、簡易給食等を余儀なくされました。ご迷惑をおかけいたしました。今更ながらに、この地震の被害の大きさを痛感しているところです。

兵庫県では大半の人たちが「この地域では大地震が起こるはずはない」と、長い生活経験から安易に考えていましたので、今回の甚大な被災状況によりあらゆる面でパニックに陥りました。子どもたちにも心理的な面で大きな影響を与えており、「こころのケア」が必要な子どもたちも見られます。

一方、「生きていたこと」で「いのちの大切さ」を身をもって学び、日頃私たちが忘れかけていた「助け合う、分かち合う、互いを思いやる」の「共に生きる社会」にとって大切なものも数多く学ぶことができました。失ったものはあまりにも大き過ぎましたが、この教訓を無駄にせず、児童生徒を中心に置き、地域との連携を一層深めながら、全職員協力して、災害時における学校の危機管理体制を組織し、ますます阪神養護学校が発展するように全力を尽くしたいと思っています。

強く たくましく 子ども達と共に

育友会会長 下森真利子

1月17日の阪神大震災は、一瞬の出来事で未曾有の大惨事をもたらし、5500人余りの尊い命が犠牲となりました。ここに謹んでお見舞いを申し上げますと共に一日も早い復興を祈念致します。

私たち保護者の中にも一人犠牲となられ、そのお子さんは救出に手間どり、今二次障害でリハビリに励んでおられます。一番お気の毒な状態なのですが、あとの子ども達 270人近くは、皆元気とわかりホッとしたものでした。当初、電話回線がパンクとなり安否の連絡・確認がままならなかった事が人々を一層不安にしたように思います。またその当時はライフラインの復旧もいつになるか分からない状態で学校の再開も危ぶまれていた時だけに県外へ避難されている方がかなり多かったように思われます。普段便利な所に住んでいることを自負しているところがあったのですが、このような惨事になった時、都市機能の脆さを痛感しました。

通学区域が芦屋市・西宮市・宝塚市・尼崎市にわたり、その状況は、市や地域によってかなり違い、子ども達もそれによっておかれている状況は違っていました。あまり被害を受けなかった地域では、いつ学校再開できるのだろうか、と学校に行けないことに不安を募らせている親子もありました。毎日、水の確保に時間を費やさなければならない親子もありました。そういう中で学校に親子で通える子ども達は学校へ登校し、地域で通える所には地域教室が開設され、それぞれの場所で授業を受けました。その後スクールバス登校が可能になり、徐々に学校再開がかなった訳ですが、ライフラインも途絶えていて校舎も全部使用できない状態でしたが、そういう中でも学校に行けることは親にとって嬉しいものでした。先生方、学校関係者のご尽力のおかげで早く再開できたものと感謝でいっぱいでした。

またこういう状況の中で思いもかけぬ地域の公民館をお借りしての地域教室は、どちらかといえば地域と縁の少ない親子でしたので不自由な中でも子ども達を知ってもらう機会にもなったのではないのでしょうか。心良く施設をお借りできたこと、館長さんはじめ皆さん本当に有難うございました。今まで「地域に根ざす努力を」と言いながらなかなか一步を踏み入れることができなかったのが本当に良い経験をさせていただきました。

あれから半年、学校まで交通渋滞は起こっているものの、スクールバス等で元気に登校し一日が始まっている訳ですが、まだ仮設住宅や他府県に移り住んでおられる家族もあり、今なお厳しい状況の方もあります。子ども達の笑顔を見ている中ではあの震災が嘘のように思われる時もあります。けれどもいろんな所に爪痕を残しているのも紛れもない事実なのです。

私たち親も、子ども達を抱えながら生きてきた年月がありますので案外とこの震災でおかれた状況の中で自分自身の逞しさを再認識した人もあったのではないのでしょうか。

最後に全国各地より励ましのお手紙、義援物資、義援金等をいただきまして本当に有難うございました。皆さんの温かいお気持ちを受け止め、この震災での教訓を活かして、強くたくましく子ども達と共に生きていきたいと思っています。

I. 1. 17 震災発生から学校再開、復興の記録

1. 記録

1 安否の確認と復元作業 (1/17~1/21)

17日(火) 一人二人と出勤してきた教職員(約30名)は、校舎内外の地震の影響の大きさに何から手を付けてよいか戸惑いを隠せなかった。校門を入るとガスの匂いが鼻を打ち、アスファルトが大きく地割れしており玄関のドアのガラスにひび割れがいて、今にも落ちてきそうで危険な状態であった。1号棟2号棟の校舎の基礎部分が20センチ程隆起(周辺が沈下)して地面との間が露出し、水道管が壊れ水が迸っていた。取り敢えずガス漏れと水漏れに対し元栓を閉める。

校舎内は職員室始めすべての教室は手のつけようもないほど、耐火金庫も倒れ、机・本箱・ロッカー等散乱を極めていた。

校舎の継ぎ目のジョイント部分は弾け飛んで下が見えるほど隙間が開き約10cmの段差も生じていた。3号棟の東より3本目の柱2本、次いで4号棟の東より5本目の2本も剪断亀裂(クラック)が入り、他の柱にもわずかな亀裂が走っている、そのため3・4号棟は立入り禁止とした。

この日は教職員もそれぞれ被災した状況にあり、残った教職員で復元作業に手を付ける事にし、玄関のガラスについては取り除き、コンパネ板で応急措置を行う。

5時、ようやく事務室・校長室を復旧する。学事課に被害状況を報告する。

電力は職員の登校時にはすでに復旧、オンラインは使えず。電話回線は混乱。

18日(水) 登校してきた教職員で、職員室・更衣室・教室の片付け等を行う。

19日(木) 県教委学事課の依頼で、建築設計事務所が建物状況調査。大阪ガス来校、元栓チェック。今は幹線を個別に確認している所で復旧の目処未定。高3宮地君の重傷伝わる。担任は県立西宮病院救急センターへ、家屋倒壊のため母親即死、本人はタンスの下敷きで右足うっ血、さらに腎不全を起こしているため市民グラウンドよりヘリで泉州救命救急センターに空輸される。

21日(土)までは緊急対策本部を設置、登校できる教員を中心にして、児童生徒と教職員の安否と被害状況の把握に主眼を置き、情報を一覧表にして、次々と書き加えて第一次集約を行った。広範な校区を擁する本校の教職員は、電話回線がマヒした中、また交通網の遮断された中、自転車とバイクで家庭訪問し、21日には、ほぼ児童・生徒、保護者、教職員の被災状況が把握できた。訪ねた生徒宅は無残にもくずれ、「生きています」に安堵、「避難しています」の張り紙に、避難先を訪ねても確認できず。何度も足を運んでやっと確認できたことが多かった。

死者なし。負傷者は生徒に重傷1名、教職員に軽傷2名のみ、家屋の倒壊等の最終集約は右表のとおりである。

保護者1、教職員の家族に4名の死者。

復元作業は出勤した者が出来る所から手を付けていくこととした。

家屋の被害状況

	小	中	高	職員	計
全壊	5	1	15	7	28
半壊	1	17	9	18	45

児童生徒の登校については、西宮市内の小・中学校同様1月28日（土）まで臨時休業とした。また最大の学校行事である「学習発表会・作品展（1.28・29）」や武庫川女子大学の観察実習、本校で行われる阪神地区障害児教育研究大会も中止とせざるを得なかった。

23日より教職員は出勤、当日より地震対策委員会を設置し、被災状況の把握のみならず、今学校が成すべきことは何か、できることから実現させていくこととした。

2 学校再開に向けての条件整備（1/23～1/28）

23日以降、9時出勤、地震対策委員会とその後の職員会議。午後も最後に二つの会が続く。

全員で本格的な復元作業と、1月30日（月）からの学校再開に向けての準備を進めていく。そのため、校舎内外の危険箇所の補修、スクールバス運行の為の道路チェック、仮設トイレの設置、生活水の確保等を協議し取るべき方策をとった。

一方で担任は23日付けの「学校だより No.1」を持参して家庭訪問を続け、学校情報の徹底、さらなる被災状況の把握、保護者・児童生徒の心のケアも図るよう取り計らう。避難先へは郵送。

子どもらを何とかしなければという思いが強く、来られないなら教師が地域に出向いて授業を行う方策をとることにする。そのため、学校以外の「地域教室」の確保に、育友会をはじめ各教育委員会、施設等との連絡、さらには余震の際の避難経路の確認等あらゆる点検を行い、授業再開の準備のために努力した。

26日には「学校だより No.2」を出し学校再開を保護者に知らせるため、担任が直接手渡すこととする、前号同様、校区外に避難している保護者には郵送。

25日、仮設トイレ4基設置。26日仮設トイレ追加要請、27日宝塚市より20トンの給水を受ける。漏水のため翌朝には空となる。

特総研情緒障害教育研究部渥美部長一行3名（26～28日）来校、三田谷学園や青陽東養護等の被災地の関連施設を訪問。

28日兵庫県企業庁猪名川広域水道事務所より中型トラックに満載したオーストラリアのミネラルウォーター届く、約10ト分職員手送りで渡り廊下に積み上げる。

27・28日は児童・生徒の登校に備え、危険箇所の補修やフェンス張りを行う。砕石8ト使用。

3 学校再開と「地域教室」（1/30～2/4）

施設との打合せの都合もあって、本校と「ワークプラザ宝塚」「三田谷学園」「尼崎市中央公民館」は1月30日に、「県立総合体育館」と「園田公民館」は1月31日に開校した。いずれも開設時間は9時から11時半までとする。開設に伴って派遣する教員の割当を行う。この間毎日対策委員会を行い、出席生徒の人数確認と教室での状況報告、問題点の検討等を行う。

「ワークプラザ宝塚」は阪急電車宝塚～仁川間の開通により2月1日より閉鎖となる。

30日、スクールバス運行のため、通行許可車両の申請に行く。本来学校所在地の警察へ行くべしであるが、交通事情悪化のため尼崎北署で発行してもらう。

この日「学校だより No.3」で地域教室等の開設を知らせる。

31日、全7コースの登校便試走、バス係、介助員も乗り込む。芦屋・西宮・尼崎南部コース学校到着11時～12時。

2月1日(水)、全7コースの下校便試走、2日は尼崎市内の3コースを再度試走。これらの試走を経て6日より、被災の軽い尼崎についてはスクールバスの運行可能との結論に達する。

2日、読売新聞正田記者、芦屋三田谷学園の地域教室取材、後学校での取材。3日記事となる。

3日、「学校だより No.4」で6日より尼崎市内在るスクールバス⑤⑥⑦系統を運行すること、自力通学生の通学、今後の見通し等を知らせる。

4日(土)、校舎の建築業者が建物被害状況調査。ストーブ、ファンヒーター20台到着。

地域教室へ行かれた先生方

	小 学 部	中 学 部	高 等 部
三田谷学園	○村林、泉川	◎久下、三上、福田	小西、木村、竹内、川合、谷
ワークプラザ宝塚		矢尾	◎金田
尼崎中央公民館	◎朝井、岩野、芦田 半田、徳永、影山 ○梅井、池田、雑賀 上堀内	広田、今田、西田 柏木、木場、大橋 源田、	足高、吉本、須藤、西谷、造田 後藤、清水、上野、濱里、石倉 山崎、
園田公民館	○高橋、西村、吉野 仁頃、	伊藤、斎藤、野口 川向、西村	◎村上、福富、羽田、谷林、大森 長原、若田、桜井、野川
兵庫県立総合体育館	○今井、木田、宮野 山本、友添、仲	◎上川	河村、森本、倉田、鈴木、立石 木村、岡本
本 校	上記以外 8 名	上記以外 13 名	上 記 以 外 31 名

4 スクールバス運行の再開(2/6～2/10)

2月6日(月)より自力登校と尼崎市域の児童・生徒スクールバスで登校。登校者数151。宝塚コースの中型バスを抜け道ルートで芦屋へ廻し送迎するコースを考える。また西宮を廻る2つのコースについても路線カット、抜け道ルート、宝塚は路線カットで運行を考える。

三田谷学園の児童・生徒、金剛コロニーに一時的に預かってもらう話があると、園長より電話。午後、高等部入学選考説明会(於・分校)

7日、思わぬアクシデント発生。未明阪神電車の回送車が尼崎駅で脱線、その影響を受けてこの地域の送迎をしている⑥系統のバス学校着10時50分。無線による便器と着替衣料持込みの要請を受け、車でバスに向かうもバスに会えず。抜け道・カットコースで芦屋・宝塚・西宮を試走。

何とかなるとのバス系の結論。これを受けて、「学校だより No.5」で芦屋・宝塚・西宮にスクールバス運行を知らせる。ガス・水道が復旧しないので給食が出来ず、授業は午前中だけであること、校舎も3・4号棟はまだ使用不可であり、全面復興の見通しが立たない状態であることも知らせる。

同日午後8時、再び同量のペットボトルの飲料水がグリーンピア三木より届く。

9日(木) 芦屋、西宮、宝塚各地区のバスの運行を開始する(全系統9:20到着)。これに伴い各市の地域教室は全て閉鎖。登校者数184。下校を土曜下校の11時20分とする。

三田谷学園の児童・生徒、11日より金剛コロニーに一時緊急避難との正式連絡あり。

10日(金) 水道復旧作業始まる。16日(木)より簡易給食を実施する方向で。金剛コロニーに入り富田林養護に仮転校するため全児童・生徒の簡単な記録をFAXで送る。

11日(第2土曜) 社の県立教育研修所にて「平成7年度兵庫県立盲学校等高等部入学者選考学力検査等の実施に係る臨時的措置について」の説明会(緊急時ゆえ全県校長会をこの日開催)

5 給食開始・全館使用・水道・ガスの復旧(2/13~)

13日(月) 「学校だより No.6」16日より簡易給食実施、下校1時を知らせる。

・水道復旧作業

15日(水) 水道管掘削開始。1号棟周辺で手間取り、18日1号棟ようやく給水、20日2号棟一部給水、21日に給食棟・3・4号棟まで、同日水質検査依頼し23日異常なしの報告を受ける。

16日(木) 読売新聞、給食取材。17日記事となる。

17日(金) 県教委、第二次精密調査、「即使用可能」と。柱の亀裂を覆い、段差にスロープ等の補修を行い、全館使用に向けて作業を開始。正午大震災の犠牲者に対して黙禱。

・ガス復旧作業

18日(土) 大阪ガス開栓班調査、3系統共ガス漏れあり、改めて修繕班が来ることになる。

19日(日) 大阪ガス内管修繕班、1号棟より修理開始。

20日(月) 1号棟修繕完了、給食棟・3・4号棟ガス管異常なし、ラッキーの一言。

20日(火) 読売「復興へ、先生の頑張り結実、抜け道でバス送迎」正田記者名入りで記事。

22日(水) 1・2号棟暖房開始、電気会社からの救援物資のファンヒーター20台回収。「学校だより No.7」で第二次精密調査『即使用可能』であること、さらに段差の補修、ガス復旧、普通給食、2時下校を伝える。「学校だより No.8」(2/24)でも同様に伝える。

6 学校再開はしたけれど

25日(土) 新交通規制(R2線・R43線とも西宮市域の手前より規制)が開始されたこの日、尼崎市南西部を回るスクールバス⑥系統は、午前11時の時点で最終バス停の関西労災病院前、そのため最終バス停より折り返して下校させる。保護者へは学校より電話連絡。27日(月)より3・4号棟を使用して授業を再開するため教室移動を行う。

27日(月) 全教室使用再開、バスの送迎も通常のバス駐車場とする。1号棟北側の困難な駐車より解放される。また簡易給食に温かいスープ等を加えた給食となる。

28日(火) スクールバスコース試走のため自家用車1台分除外申請する。

3月1日(水) 完全給食実施、下校時刻を午後2時一斉下校とする。ファンヒーターを仮設住宅等で利用してもらうべく宝塚市災害復興対策本部に寄贈する。

4日(土) 横浜国大建築学教室の壁谷澤助教授の一行6名、東京都派遣職員3名、本庁より2名午後より再度精密検査。

27日～4日(月～土) この一週間のスクールバスの到着時間はほぼ4台は9時～9時10分、2台が20分、⑥系統については30分から50分、卒業式の定刻開始は無理か。

7日(火) 高等部卒業式、⑥系統32分に到着、45分より開式。金剛コロニーに行っている三田谷の生徒のみならず、避難先からも卒業式に参加する。

10日(金) 高等部入学選考 56名受検。

16日(木) 合格発表、56名合格。内1名は本校入学後大阪に転校予定。

17日(金) 小・中学部卒業式、金剛コロニーに行っている三田谷の児童生徒も参加したが、式終了後、再びコロニーに帰る。

23日(木) 修了式、最終バス到着9:50。式を10時より行うこととする。このため学校長分校の終業式への出席大幅に遅れる。三田谷の児童生徒は出席せず。

7 児童生徒のライフライン未復旧状況

	2月20日				⇒	3月1日				⇒	3月10日			
	小	中	高	計		小	中	高	計		小	中	高	計
ガス・水道	2	4	8	14		2	4	6	12		1	2	3	6
ガス	9	10	19	38		8	9	18	35		3	7	9	19
水道	3		1	4				1	1					
				(計 56)					(計 48)					(計 25)

8 年度末 各養護学校への挨拶文

平成7年3月30日

各養護学校 学校長 様

兵庫県立阪神養護学校 校長 小林 庶 良

未曾有の大震災から、はや70日。苛酷な避難所生活を強いられている7万余人の皆さんのお姿を見るたびに、いまなお胸が痛みます。

今回の大惨事をもたらしました阪神大震災に際しまして、全国の数多くの養護学校から本校に対

して、見舞金や、お見舞いの品々や、激励のメッセージを児童生徒会、教職員、PTA等から頂戴し誠にありがとうございました。

早々に、お礼のお手紙を差し上げねばならぬところでしたが、何かと混乱の続くなか、年度末となってしまったことをお許し下さい。

1. 17以後の歩みの概要をお知らせします。(詳しくは同封の『学校だより』をご覧ください)

- (1) 1月17日～21日 ①校舎、施設設備被害状況調査及び仮復元作業
②児童生徒・家族・教職員・家族の安否の確認、電話・家庭訪問による確認に奔走す。
- (2) 1月23日～2月28日
①「緊急対策委員会」を設置し、当分毎日開催、日々の状況の集約と翌日の対策協議。
②西宮市内の学校と同様1月28日まで臨時休校を決定
- (3) 1月30日(月)～学校再開(午前中授業)、登校可能な児童生徒は保護者同伴で登校。
「地域教室」を芦屋・宝塚・尼崎に開設、31日には尼崎は2か所、西宮も追加。
- (4) 2月6日(月)～尼崎をカバーするスクールバス3台の運行を開始、尼崎の地域教室を閉鎖
- (5) 2月9日(木)～残るスクールバス4台の運行を開始、芦屋、西宮、宝塚をカバーする。
- (6) 2月16日(水)より簡易給食を開始、ガス復旧にともない、3月1日より本格給食を実施する。下校を2時とする。高等部・小・中学部の卒業式を無事すませ、3月23日終業式を行う。
以上で学校は平常に戻ったかにみえますが、問題は山積しております。

- (1) 9時数分前に7台のスクールバスが到着していましたが、3～4台は常時30分の遅れ。
- (2) 1時下校、3時下校という2便に分けた下校体制がとれない現状。
- (3) 被災による転校生の多さ、その処理。教職員定数の変動。
等、学年末の仕事におわれております。

渡り廊下に各校からの激励文を掲示させてもらっています。

児童生徒の見舞いのお礼文も同封いたしました。またこの間、本校を密着取材してくれました読売新聞社会部・正田和也記者の記事も添えておきます。

この度の震災では、2カ月間で延べ百万人に及ぶボランティアの皆さんが全国各地から駆けつけ、被災者を助け、励ましていただきました。献身的な活動に『共に生きるころ』の大切さを改めて痛感いたしました。その上貴校を始めとする激励に対して衷心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

その『ころ』に応え、『共生の世紀』を先導する自立復興を成し遂げたいと思っています。今までもまして、ご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

9 転出児童生徒の状況

平成7年4月1日現在

1. 転出

(1) 確定した者	小3	中4		計7
(2) 一時避難等で転出していたが4/1現在本校に復帰した者	小2	中1	高2	計5
(3) 一時避難等で転出していたが5/1現在本校に復帰する者			高1	計1
(4) 本校に入学し、被災のため居住地を移し、学籍も異動する者			高1	計1
(5) 本校に入学し、学籍の移動はするが、年度内に本校に復帰するため本校は内数としていたが、先方の学校で内数としたため除外した者			高1	計1

2. 一時避難等で学籍の移動が確定していなかった者について

(1) 本校に在籍し、区域外就学を続けている者(6月復帰予定)			高1	計1
(2) 本校に在籍し、区域外就学を続けていたが、4/17より登校する者			高1	計1
(3) 本校に在籍し、仮預かりで、本校に復帰した者	小1			計1
(4) 施設の緊急一時避難で仮転校、学籍は本校であった者	小2	中11	高5	計18
(5) 一時避難していて成人寮等に入っていたため学籍異動のなかった者			高3	計3

3. その他 【3/8 現在で学校へ通学できていなかった生徒のその後の状況(学年は6年度)】

- 小2男 …… 淡路に避難、仮設の申込をしていたが、3/11にようやく入居、13日より登校。
中2男 …… 母の実家に避難、祖父母が実家の近くの養護学校に通うことを拒否。4月より登校。
高1男 …… 施設より自宅に帰ったまま、施設の復興で4月より登校。
高2男 …… 自宅崩壊、避難所転々、5/17ようやく市営住宅入居。
高2女 …… 母方の熊本の実家に避難 3/9自宅に戻るも、母親の発病で登校不可。
高2男 …… 津山の父親の単身赴任先に避難、4月より登校。
高2男 …… 施設より自宅に帰ったまま、施設の復興後は施設を退所。
高2女 …… 神崎郡市川町に避難、仮設入居待ち、4月より登校。
高3男 …… 母他界、本人右足切断の重傷。泉州救命救急センターに入院、リハビリを中心とした身体障害者福祉センター附属病院に5/10転院。

4. その後の変化

1. 転出 (3)の生徒 …… 5/1 本校に転入。
 1. 転出 (5)の生徒 …… 入学式までに転出。
 2. 一時移動 (1)の生徒 …… 6/1 転出。
 2. 一時移動 (2)の生徒 …… 4月17日転入
 3. その他 高2男(自宅に帰ったままの生徒) 5/8 転校。
- 上記以外に 小1男・小3男の2名転入、小1男・小6女・高3女の3名転出

10 校区内の鉄道・道路の復旧状況

- 1月25日（水）JR東海道線甲子園口－芦屋間復旧、芦屋－住吉間再開は2/8
- 1月26日（木）阪神電車甲子園－青木間復旧、青木－御影間再開は2/11
- 1月27日（金）中国自動車道が全通（ただし上下各1車線）
- 1月28日（土）国道43号線が全線開通
- 2月1日（水）復旧作業、物資輸送で国道2号、43号線通行規制
- 2月6日（火）阪急電車今津線全通
- 2月13日（月）阪急電車御影－王子公園間復旧、三宮－王子公園間再開は3/13
- 2月20日（月）JR東海道線灘－三宮間運転を再開
- 4月1日（土）JR東海道線灘－住吉間の運転再開で全線開通
- 4月8日（土）新幹線全線開通
- 6月12日（月）震災から146日阪急電車神戸線全通
- 6月26日（月）震災から160日阪神電車全線開通

2. 学校だより — 大混乱の中で正確な伝達を —

学校だより No. 1

平成7年1月23日

この度の兵庫県南部地震により被災されました皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。さて、この地震により1月17日（火）より臨時休校致しておりましたが、学校の再開につきましては、校舎の損傷が激しく復旧までなおしばらく時間を要する見込のため、取り合えず1月28日（土）まで臨時休校といたします。校舎の安全と水道、ガスの復旧、スクールバスの運転のメドがつき次第、緊急連絡網、テレビ、家庭訪問等で連絡いたしますので学校からの連絡をお待ちください。

児童生徒及び教職員の安否につきましては目下鋭意確認しておりますが、高等部3年生の宮地友一君が重体、その母親死亡、澤内富美子先生の母親と姪死亡、高鷲昭子先生の義妹死亡、梅田紀子先生の義父死亡等の報が入っております。その他の児童生徒、教職員は全員無事の模様です。

皆さま方にはこれから何かと大変な事と思いますが、職員一同、力を合わせて学校再開、被災者の支援に向けて頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお近隣の養護学校とは被害状況に違いがありますので、取扱いにおいて異なる点が生じるかもしれませんがご了承願います。

また変わったこと及び連絡等ございましたら下記の所に電話を下さいますようお願い致します。

記

兵庫県立阪神養護学校 0798-52-6868

10 校区内の鉄道・道路の復旧状況

- 1月25日（水）JR東海道線甲子園口－芦屋間復旧、芦屋－住吉間再開は2/8
- 1月26日（木）阪神電車甲子園－青木間復旧、青木－御影間再開は2/11
- 1月27日（金）中国自動車道が全通（ただし上下各1車線）
- 1月28日（土）国道43号線が全線開通
- 2月1日（水）復旧作業、物資輸送で国道2号、43号線通行規制
- 2月6日（火）阪急電車今津線全通
- 2月13日（月）阪急電車御影－王子公園間復旧、三宮－王子公園間再開は3/13
- 2月20日（月）JR東海道線灘－三宮間運転を再開
- 4月1日（土）JR東海道線灘－住吉間の運転再開で全線開通
- 4月8日（土）新幹線全線開通
- 6月12日（月）震災から146日阪急電車神戸線全通
- 6月26日（月）震災から160日阪神電車全線開通

2. 学校だより — 大混乱の中で正確な伝達を —

学校だより No. 1

平成7年1月23日

この度の兵庫県南部地震により被災されました皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。さて、この地震により1月17日（火）より臨時休校致しておりましたが、学校の再開につきましては、校舎の損傷が激しく復旧までなおしばらく時間を要する見込のため、取り合えず1月28日（土）まで臨時休校といたします。校舎の安全と水道、ガスの復旧、スクールバスの運転のメドがつき次第、緊急連絡網、テレビ、家庭訪問等で連絡いたしますので学校からの連絡をお待ちください。

児童生徒及び教職員の安否につきましては目下鋭意確認しておりますが、高等部3年生の宮地友一君が重体、その母親死亡、澤内富美子先生の母親と姪死亡、高鷲昭子先生の義妹死亡、梅田紀子先生の義父死亡等の報が入っております。その他の児童生徒、教職員は全員無事の模様です。

皆さま方にはこれから何かと大変な事と思いますが、職員一同、力を合わせて学校再開、被災者の支援に向けて頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお近隣の養護学校とは被害状況に違いがありますので、取扱いにおいて異なる点が生じるかもしれませんがご了承願います。

また変わったこと及び連絡等ございましたら下記の所に電話を下さいますようお願い致します。

記

兵庫県立阪神養護学校 0798-52-6868

学校だより No. 2

平成7年1月26日

平成7年1月23日付けの「学校だより」で1月28日（土）まで臨時休校というお知らせを致しましたが、その後の予定についてお知らせ致します。

1月30日（月）より午前中（9:00～11:30）だけ学校を再開いたしますが、校舎は3号棟と4号棟の安全が確認できない上、水道・ガスの復旧、スクールバスの運転のめどが未だにつきませんので、通常の登校は出来ません。従いまして、保護者が送り迎えできる児童生徒の皆さんだけの学校再開になります。その他の児童生徒のみなさんは改めて学校から連絡のあるまで自宅待機をお願いいたします。

学校といたしましては、学校に登校出来るみなさんを受け入れる準備をする一方、学校に登校できない児童生徒の皆さんが、各地域の学校・施設等で受け入れてもらえるかどうか問い合わせをしております。

今の学校の状況をまとめますと以下の通りになります。

- 1 スクールバスは道路事情のため運転できません。現在通行可能な道を点検中です。
- 2 水道とガスは復旧しておりません。
- 3 校舎は1・2号棟は使用出来ますが、3・4号棟は安全上使用を控えています。使用可能な所は、他にプレイルーム、北グラウンド、大会議室です。
- 4 便所は仮設トイレを男子用2、女子用2を設置しました。
- 5 保護者が送り迎え出来る児童生徒のみ午前中授業可能です。
- 6 登校の際は飲料水をご持参下さい。

すべての児童生徒が学校に来れるように努力しておりますが、諸般の事情によりむずかしい状況にありますので、今しばらくのご辛抱をお願いいたします。

なお今後の状況につきましては順次お知らせ致します。

学校だより No.3

平成7年1月30日

平成7年1月26日付けの「学校だより」でお知らせしました「各地域の学校施設等での受け入れ」の問題が解決しましたのでお知らせ致します。

なお受け入れ施設での教室を「地域教室」と呼びます。

I 本校以外の地域教室は以下の5箇所です。

- 1 三田谷学園（芦屋市楠町16-22-5025 TEL 0797-22-5025）
- 2 ワークプラザ宝塚（宝塚市口谷東3-28 TEL 0797-89-8733）
- 3 尼崎市中央公民館（尼崎市西難波町6-14-34 TEL 06-482-1750）
- 4 園田公民館（尼崎市食満2-1-1 TEL 06-491-5496）

5 県立総合体育館（西宮市鳴尾浜1-16-8 TEL 0798-43-1143）

II 以下の要領で開校致します。

○ 開校日

本校と上記のうち1、2、3は1月30日（月）より、4、5は1月31日（火）より開校します。

○ 開校時間はいずれも9時より11時30分までです。

○ 集合場所（保護者同伴で直接お越し下さい）

本校 —— プレイルーム（保護者は大会議室へ）

地域教室 —— 各教室の指定場所（当日各教室の責任者の指示に従って下さい）

○ 各教室の責任者

三田谷学園 —— 久下教諭

ワークプラザ宝塚 — 金田教諭

尼崎市中央公民館 — 朝井教諭

園田公民館 —— 村上教諭

県立総合体育館 —— 上川教諭

学校だより No 4

平成7年2月3日

学校だよりNo 3（1/30）でお知らせしましたように、1月30日より学校を開校するとともに、宝塚・芦屋・西宮・尼崎でも順次「地域教室」を開校致しました。

それぞれの施設に参加した児童生徒は日々約140名あまりでした。児童生徒の約半数が参加してくれたことになり、それぞれの施設で歓声があがっていました。

未曾有の大震災による交通網の寸断、停滞によりスクールバスの運行をやむなく中断し、児童生徒、保護者の皆さんには甚大なご迷惑をおかけしております。

この間、教職員等による朝昼の道路事情の把握・点検のほか、スクールバスの試走と添乗を毎日実施して参りました。その結果尼崎市内に限って何とか運行が可能であると決断し、2月6日（月）より、下記のとおり実施することに致しましたので、よろしく願いいたします。

記

☆スクールバスは⑤⑥⑦系統のみ運行します。

☆変則的ではありますが尼崎市内の児童生徒につきましては、2月6日（月）より別紙「スクールバス運行について」にそって登校させて下さい。したがって、中央公民館・園田公民館での「地域教室」は閉鎖いたします。

☆学校へガス・水道は来ておりません。現在の交通事情より、午前中授業（11時20分下校）で授業を再開いたします。

☆自力通学生の通学について

(1) 2月6日（月）より通学可能な生徒は登校して下さい。

- (2)阪急電車今津線（5日復旧）及び阪急バス（35系統）のダイヤは平常通りです。
- (3)甲東園駅東側のマンションが崩壊の恐れがあるため、甲東園駅を使用せず仁川駅下車とします。
- (4)仁川駅・同バス停には安全確保のため教員を当分の間配置します。
- (5)通学経路での混乱が予想されますので西宮北口駅駅長室前に集合（8時10分）して教師の引率のもと登校します。心配な生徒にはしばらくの間、付添い等の協力をお願いします。
- (6)甲東園～仁川間の乗り越し分 120円（往復 240円）をご用意下さい。
- (7)市バス等の利用で渋滞が予想され、通常の登下校が不可能な場合は、最寄りのスクールバス停からバスに乗って下さい。（ただし運行する⑤⑥⑦系統のみ）

☆今後の見通しについて

「スクールバス運行について」の下段に記していますように道路事情は最悪の事態となっております。道路工事の終了状況把握、始発地への経路変更、中型・大型バスの変更による試走、ターミナル方式等の試走を朝昼に行い、全校生の笑顔がならぶ日の一日も早く来るよう努力しておりますので、今しばらくご辛抱下さいますようお願いいたします。

学校だよりNo.4 を受けて「スクールバスの運行について」を配付しました。

「スクールバスの運行について」

先の大震災による交通網の寸断・渋滞により、スクールバスの運行をやむなく中止する事態となって今日に至っており、児童生徒・保護者の皆さんには多大なご迷惑をおかけしています。

この間、交通事情の把握、通行可能な道路の点検のほか、スクールバスを試験的に走らせることも実施しました。その結果、尼崎市内に限っては何とか運行が可能であると判断するにいたりました。

運行可能なスクールバスは以下の系統です。

- ・ 7系統 —— 通常の路線を、ほぼ通常の時間で運行します。
- ・ 6系統 —— 下校時も登校時と同じ順路になります。
- ・ 5系統 —— 西宮市のバス停は通らずに尼崎市のみに路線を変更して運行します。
（路線・時刻については別紙をごらん下さい）

※各路線とも交通事情により大幅な遅れも予想されます。この点をご了承の上、よろしく
お願い致します。

※運行開始は2月6日の登校時からです。

なお、その他の地域につきましては、現時点では以下のように運行が不可能な状態にあります

が、引き続き努力してまいります。

- ・ 1 系統 —— 中国縦貫道側道西行きからインターを経て尼宝線西行きの慢性的渋滞
- ・ 2 系統 —— 山手幹線西行の渋滞、夙川周辺の渋滞
- ・ 3 系統 —— 国道 2 号線、臨港線、小曾根線の渋滞
- ・ 4 系統 —— 芦屋の始発地までの各道路の渋滞

学校だより No. 5

平成 7 年 2 月 7 日

毎日の新聞、テレビの報道によって阪神大震災の被害の全貌が明らかになるとともに、復興への力強い歩みが見えて来ています。阪神養護も復興へ向けて一步一步着実に歩みを進めています。今しばらくご辛抱ください。

さて、「学校だより No. 4」でお知らせしましたように、スクールバスは⑤⑥⑦系統のみの運行を 2 月 6 日（月）から再開しておりますが、2 月 9 日（木）より①②③④系統のスクールバスも運行出来ることになりました。これですべてのスクールバスを運行することになります。ただし、まだガスと水道が復旧しておりませんので給食が用意出来ません。従いまして、授業は午前中（9 時～11 時 20 分）のみになります。

バスの運行に伴いまして、「三田谷学園」と「県立総合体育館」の地域教室も閉鎖になります。これですべての「地域教室」は閉鎖になります。

芦屋、西宮、宝塚の児童生徒は別紙スクールバス運行のプリントによって登校させて下さい。

皆様には大変ご迷惑をお掛けしていますが、職員一同全力を挙げて復興に取り組んでおりますので、御協力方よろしくお願い申し上げます。

注☆ 自力通学生の通学について

甲東園～仁川間の乗り越し分 120 円（往復 240 円）は無料となりました。用意する必要はありません。

☆ 校舎は 1・2 号棟のみ使用。3・4 号棟は安全上使用していません。

☆ ガス、水道復旧の見通しはまだ立っていません。

参考 ☆ 学校及び地域教室への児童生徒の参加数を掲げておきます。（次の No. 6 に集約集計）

学校だより No. 6

平成 7 年 2 月 13 日

震災後 4 週間が過ぎ、学校もやっと落ち着きを取り戻してきました。生徒も在籍者数 270 名中 195 名が出席し、元気に勉学に取り組んでおります。まだ 75 名の生徒が避難中あるいは体調をこわして出席出来ておりませんが、やがて元気な姿を見せてくれることでしょう。

さて水道、ガスがいまだ復旧しておりませんので、給食が用意できておりません。何とか簡易給食でも用意出来ないかと色々検討しておりましたが、パンと牛乳、マーガリン、ジャム、チーズ、ウインナーそれに果物（みかん・バナナ）ぐらいは用意できることがわかりました。普通の給食が実施出来るようになるまで今少し時間がかかりそうですので、取り合えず簡易給食を用意し、少しでも本来の姿に近づけていこうということになりました。

つきましては、下記の要領で簡易給食を実施しますのでよろしくお願い致します。

記

- ・実施期日 平成7年2月16日（木）より当分の間
- ・実施内容 パン、牛乳、果物、その他（日によって替わる）
- ・登校時間 9時
- ・下校時間 13時

- 注 ☆ 濡れタオル（用意出来る人だけ）を持たせて下さい。
 ☆ お皿がありませんので、給食ナプキンを持たせて下さい。
 ☆ エプロンを持たせて下さい。

参考 ☆ 学校及び地域教室への児童生徒の出席数（1/30～2/13）
 （地域教室は三田谷学園、県立総合体育館のみ。2/8 まで）

	1/30	1/31	2/ 1	2/ 2	2/ 3	2/ 4	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/13
学 校	42	26	30	33	35	32	151	146	148	184	195	194
地域教室	87	112	110	117	114	115	34	33	36			
計	129	138	140	150	149	147	185	179	184	184	195	194

学校だより No. 7

平成7年2月22日

震災後1ヶ月が過ぎ、学校にやってくる児童生徒と教師に微笑みが出てくるようになりました。まだ避難所等で過ごしていらっしゃる方々もあり、心いたむ毎日でございます。また通学バスは運行していますが普段のバス停より遠い所もあり何かと不自由をおかけしております。

さて先日、3号棟・4号棟を第二次精密調査で入念に調査していただきました。『即使用してもらって結構です』という結果でした。学校としましても、安全宣言が出されるまで立入り禁止としていましたが、現在使用できるように、段差にスロープを付けるとか、児童生徒の教育活動に支障がないようにするなどの補修をして、遅くとも来週始め2月27日（補修等がそれよりも早く完了すれば、完了し次第）には震災前の教室に戻って授業を再開するつもりです。

さらにガスについては、1号棟・給食棟で復旧されましたので、諸検査（食器の点検や消毒な

ど)が終了すれば、近日中に簡易給食に温かいスープ等を加えたメニューを用意するつもりであります。見通しとしては県の給食供給公社が再開されるのが3月1日となっておりますので、普通の給食になるのは3月1日以降になると思われまます(これもメニューを考えて早まるかも知れません)。

また、スクールバスの運行ですが、日々道路事情は良くなってきておりますが3・4・6系統は到着が定まっております。下校便も現在1時ですが3時には帰っていないバスがあります。

バス系の先生方には3時出発で試走をしてもらっていますが、この時間帯からの道路事情は非常に悪い状態です。従って、普通給食が実施されても、一斉2時下校とせざるを得ない現状をお含み下さい。

最後に、3・4号棟にも水が来ましたので3～4号棟の間にある洗濯槽の使用が可能となっております。保護者の中で洗濯等でお困りのかたはご使用下さい。

要点を記します。

- 1 校舎は全号棟使用することが出来ます。使用は補修のため2月27日をめどにしています。
- 2 ガスは復旧しました。
- 3 水道は復旧しましたが、漏水のため2号棟のみ教室の水道が使用出来ません。現在修理中です。(トイレの水は出ます)
- 4 給食は現在簡易給食中ですが、普通給食に戻るのは3月1日以降になります。
- 5 下校時刻は現在は13時ですが、普通給食に戻った時点で14時になります。梅の花便りも聞こえてきておりますが、いましばらくご辛抱下さい。

学校だより No. 8

平成7年2月24日

「学校だよりNo. 7」でお知らせしておりましたが、給食等について下記のとおり決まりましたので、よろしくお願い致します。

記

- 1 給食 3月1日(水)より普通給食にもどります。
(2/24.2/27.2/28の簡易給食に温かいスープが付きます。献立については別紙「きゅうしょくだより 2・3がつ」をご覧ください。)
- 2 下校時刻 3月1日(水)より全学部学年とも2時一斉下校になります。
(これは道路事情により、1時と3時下校の2本立てが不可能なためです。今しばらくご辛抱下さい)
- 3 校舎 3号棟4号棟が使用できるようになりましたので、授業をするための教室の整備ができ次第、元の教室で授業をします。〔遅くとも2月27日(月)から可能〕

3. 地域教室だより

「一日でも早く、子ども達との勉強を再開したい。」という思いから、使用許可の出た各地域の施設から地域教室が始まっていきました。それは学校を含め6か所にわたり、子ども達は家から歩いて、あるいは市バスで通える範囲の教室を選び、登校し学習が始まりました。慣れない場所での勉強、でもこれは奇しくも、この子たちがどんな事を学んでいるのか、地域の人々に知ってもらえる場にもなったのでした。

中公教室より

時には小園のちろつきがしい毎日、
慣れは、道とにらむの送迎。ほんとうに
ご苦労な事です。
久しぶりに出会う子ども達の笑顔が
再会の喜びと懸命に物陰、ていどいね、
あの笑顔はほほえましく、「頑張
らねば」と励まされた気がします。
しばらくの間お力をあつらい致します。



限られた条件の中ですが当面、次の方法は授業と並行
したいと思っております。

- 借用できる教室は、「小ホール」の他、日によっては、
2階の「視聴覚室」や「会議室」などに変わる事が
ありますのでご注意ください。
*他の部屋に変わる日(水)の部屋は326と5を連打して下さい
3/2(木)・・・2階 視聴覚室
3/4(土)・・・高層部 2階 23号室 小中併用は21号室
3/6(木)・・・2階 25号室
3/8(土)・・・2階 視聴覚室

- 授業は当分間、9時～11時30分とします。
- 「朝の会」と「終りの会」の外は、^(原則)学級毎に学習します。

今週の学習予定

小学部			
3/1(水)	2(木)	3(金)	4(土)
音外 楽遊 び	お散 はば し	歩 行 訓 練	図 工

中学部			
3/1(水)	2(木)	3(金)	4(土)
音外 楽遊 び の 面 作 り	散 歩 歩 行 訓 練	(前分話) 節 分 美 会	折 り 紙 外 遊 び

高等部			
3/1(水)	2(木)	3(金)	4(土)
自 由 あ そ び (リレタビ)	ラ イ ト ス ト リ エ リ ン グ ラ ミ ニ ン グ リ レ タ ビ	か ま た り ラ イ ト ス ト リ エ リ ン グ	ゲ ー ム (お菓 ま つ り 大 全 な ど)

落し物みつけた
「ガーゼのハンカチ」
3月1日は野菊の
いはい描かれています



西宮教室だより

阪神養護学校
第 2 号
H.7.2月2日

2月6日(月)のスクールバス⑤④系統が運行開始となり、(Eバス⑤は西宮方面を通りません)園田教室と尼崎中央公民館教室は閉鎖することになりました。私今課程が復活(2月6日刊)するに各教室に来ていた自校の皆さんも本校へ通えるようになりました。西宮教室はあとしばらく続きそうです。

西宮教室ではどんなことしているの？

小中高合同で活動するみたい、いろいろ何しようかなどいろいろあるけど、なにより不安もありました。楽そうだけど、やっぱり楽しい。昨日、初日ですみじやうな賑わいをして、涙がホロホロと出てきました。2日目の今日は笑顔がよく見られました。昨日はゲームを中心にやりました。フットボールを使った陣のゲームや、ボウリングやビリヤードです。やろうと、ゲームの熱が入り(職員の方が)ワーワーと騒いで、にぎやかでした。今日は音でつながる、の河村イ、歌のダンバンを歌。E:



西宮教室だ

スクールバスが動くことになり、尼崎方面の子供たちが本校へ通えるようになりました。西宮の方も今日からバスの試走があり、近々本校へ通えるようになりそうです。西宮教室もあと数日で閉鎖です。本校では、3号棟が危険で使えない、おびやな不都合もあり、学部ごとに、701ルーム、体育館などに集合して授業をするようになっています。これを思えば、この体育館は、お母さん方の差別地への不自由さはありませんが、施設に恵まれており、館長さんにもとても親切にしてくれています。日ごと子どもたちが落ちつき、閉鎖するのはなにより残念。みんな不謹慎なことを言っている私です。でも、少しづつ平常の形に近づけていかなければなりません。みんなが学校に行け、クラス、学年の先生やお友達に逢えること、これは何にも増してうれしいことです。あと数日です。西宮教室の活動を楽しんでほしいと思います。

今日の活動の予定

6日(月) 1. 体育(リミックスマス) 2. ビデオ

7日(火)

1. 音楽 2. 散歩

8日(水) / 調理 (調理室が貸してあります)

この「おどろおどろしい(こわい)曲」...「この曲の題名を知らない曲を、笛とタンバリンで演奏してみたい...」いふ、あ、楽しいです。小学部の子たちは、入ってこないのでは...と心配して、一番上手だ、Eは小学部の子たちです。(ちよこさん) 活動2は、近くの臨海公園へ散歩。通路が広く割れていた。駐車場や芝の広場に仮設住宅の建設が進んでいた。地震のつゆのたまたまを改めて感じました。散歩中はホカホカして、気持ちよかったです。時々外に出てみたいと思います。

2月2日の予定

活動1... 体育館の活動 (リミックスマス) 活動2... 音響の体験

職員紹介

高利 妹背 T. の如川 T. 介助 T. は 荒木 若林 中 T. だ

お知らせお願い

・体操服には着がえなし。(時間がたつと更衣室が汚れるので) 必ず(体操服)を着てくは、カバンの中に着替えるおいて下さい。 さい川 T. 置く場所がないので、うしろです。(本館刊にはまだ掲載して)

行事をしました

この方ど、豆まきなどできなかった。と、き、体育館の方でもやってあげたい... と思いましたが、二日の鬼役は高の倉田 T. でお面はあはれる方が鬼らしい... たくさんにくだらしいことを言われながら、鬼として活役。布球をみんなから木っく投げつけられた。時に福田 T. も、園本 T. は、満身の力をこめて投げつけてくれた。何か、うらみでやったのかしら... あ、お豆を食べました。年の数だけは食べたい... とおぼが、いかにやった先生は誰でした。このお豆を視察員、教員、機材部など鬼の出ているおもしろいビデオを見ました。

2月4日(水) 外出してたくさん遊べました

先日、田地の中の公園で、中々遊べず、心残りでしたので、二日は早朝に出発しました。近所に在住している子供たちが多いため、T.T. があると思います。南グラウンドにも、お道具が多いため、よくおぼが好きなことをして楽しめました。田地でも、お水が出たので、行き交う人誰かが、おリタンクのお水を、おゴゴゴ...、このゴゴゴ... という音が、お... と響いているので、早くおぼが...

4. ふりかえりつつ 明日を拓らく

教頭 上田 洋行

たった一度の忌まわしい大地の雄叫びが、光と水と人々の活力に溢れた海辺の都市や町を一瞬のうちに瓦礫の山に変え、5500人を超す尊い命を奪っていきました。

失ったものの多さに愕然とする一方、人間としての「生き方・在り方・わかちあう心・思いやる素晴らしさ」等『共に生きる宇宙船地球号』を体得した日々でありました。

自然は、私たちの生命を揺さぶり、生活に危機的な状況をもたらしました。しかし、人として生きる大切なものを浮かび上がらせ、再認識する機会を私たちに与えてくれました。

それらは、どんなことだったでしょうか。

いのちの大切さ、自然への畏敬、助け合い、ふれあい。

そして、ともに生きることのすばらしさ。

「生きているのが不思議だった」

「人はほんとうは生かされていたんだ」

暗闇のなかでも、希望の光を見ることができた人。

理屈ではなく、身体で受けとめた生命の大きさ、重さ。

「自然のすごさを見た」

「あなどってはいけないな」「やっぱり地球にはかなわない」

大自然への畏敬の気持ち。

「やっぱり家族っていいな」「ひとりでは生きていけないんだな」

家族が肩よせあって寝たなんて、はじめて！

こんなにも学校へ行きたい！ ともだちに会いたい！

思いもよらなかったふれあい、おもいやり。人と人とのつながりを見直しました。

水はいつも水道から出ているものではなかった。

「ありがとう」といって水を分けてもらったのは初めて、

モノだけを追い求める暮らしから、人が人として幸せに生きていくためのもの、

それが大切。

外国人をはじめとするボランティア、本当に勇気づけられました。

もしも、地震がなかったら、

助け合い、支えあうことのすばらしさに気づかずにいたかも知れない。

さまざまな人々との交流で感じたこころの温度、湿度。

ともに体験し、励まし合い、ともに生きることの、素晴らしさを、痛感したのでした。

さて震災以後の本校はまさに、『いかにして明日をとりもどすか』でありました。

その過程を支えてくれたものの第1は、自らも被災している教職員の復旧・復興への献身的な働きでした。それぞれの教職員の持ち場持ち場で、本当によくやってくれました。『阪神養護の教師は健在なり』を実感し、只々感謝するばかりでした。復旧作業と安否確認から始まって、「バスが走らないなら、私たちが地域に出向く」と、地域教室の開設に至りました。道路は波うち、所々地割れがしている。その中を自転車やミニバイクで走ってくれました。

第2は、育友会を中心とする保護者の協力でした。地域教室の確保に、下見にと教職員と同じように動いてくださいました。短縮路線でスクールバス送迎ができるようになってからも、いつもより長いバス停までの困難な道を送ってくださいました。

第3は、子どもたちの笑顔でした。1月30日の地域教室に集まった顔、顔、顔！！ この子らはまさに世の光なりの表情でした。この子らに教育をという思いが、バス運行を早めたかにちがいありません。

最後は、あらゆる人々の昼夜をとわぬ地味な復興努力でした。河川敷は3月中旬までガス復旧隊の出動基地でした。学校前の道を、全国各地のナンバーの車が行き交っていました。それらに加え、我々に「生きる活力」を与えてくれたのは、全国各地からの救援物資やそれらに添えられた激励のメッセージでした。本当にありがとうございました。

本校は避難所とはなりませんでしたが、この地震を経験したことでの課題もいくつかあがってきました。

まず第1点は、知的障害のある子どもたちの養護学校として、本校は「学ぶ場」と「生活の場」が離れすぎていることです。本校のように広い校区で、大規模の学校で、登校時に地震が起これば、下校することもできず、学校で待機せざるを得ません。障害児・者や高齢者が安心して避難生活のできる防災拠点として本校を位置づけ、それにふさわしい施設・設備を整えることが必要でしょう。

第2点は、記録等でも述べていることですが、スクールバスは本校の生命線であるということです。大型バス5台、中型2台で子どもたちを送迎しています。大型を減らし、中型を増やすことさらに校区を分割し、学校規模を縮小することも今後の課題だと思えます。そのことで、ある程度柔軟にバス路線を組むことができると思えます。

第3点は、地域との連携の重要性の再認識です。保護者にとって、知的障害のある子どもを抱えての避難の大変さです。障害のある子どもが地域でどう受け入れられているのでしょうか。地域教室での取り組みで、地域での受け取り方に変化があったことは事実です。でも十分な理解と認識にはおよびません。

学校週5日制の月2回実施ともからんで、この教育への理解を促し、啓発を図るため、地域の人々との積極的な交流活動を推進していかなければならないといえます。

Ⅱ その時 何を感じたか

1. 宮地くん がんばれ !!

担任 河南 勝

全校でただ一人重傷、お母さんの死亡という悲しい被害にあった宮地くんは、私のクラスの生徒でした。第一報が入ったのは19日の午後でした。教頭先生より「生き埋めになっていた宮地くんが助けられて、県立西宮病院に入院している。腎不全をおこしており、人工透析のできる泉州救命救急センターにヘリコプターで運びたいが、お母さんも亡くなられて身寄りがないようなので、学校に連絡が入った。先生、病院に行ってくださいませんか。」と連絡が入りました。

リュックを背に東の方向に歩くたくさんの人たちの間を抜けるようにして病院に着くと、酸素吸入をしてベッドに横たわる彼の姿が目に入りました。意識ははっきりしており、一言二言話もできたのでひとまず安心。病院はどのベッドも地震で傷ついた人ばかり。救急車で運ばれてくる人もあり、看護婦さんが忙しく動いていて、緊迫した雰囲気でした。担当の先生から説明を受け、「人工透析が必要なので、ヘリで大阪の病院に送りたい。4時20分に市民グラウンドにヘリがくる。」ということを知りました。

そののち25日には、生徒の安否確認作業にメドがついたので、大阪の病院にお見舞いに行きました。23日右足の太ももから下を切断したという報告をうけていたので、どんな状態か心配でしたが、病棟を訪ねるとちょうど昼食前で、私たちの顔を見ると会話もでき、看護婦さんに「誰先生か名前言ってごらん」と言われて名前を言ったり、「食べさせて欲しいの」とたずねられて、ウンとうなずいて甘えたり、ずいぶん元気な様子に安心しました。足が切断されていて、少し見るのがつらかったのですが、そのことで血行がよくなり全身活動ができるようになっていきました。28日には、かれの家のあったところを見にいきました。2階建のアパートがその形をなしておらず、2階が1階にくずれ、宮地くんの1階右端は跡形もなく冷蔵庫もへしゃがり、何もかもグチャグチャにくずれていました。彼のアルバムと大切にしていたゴジラのビデオだけは雨にぬれてはいましたが見つけだして、持ち帰ることができました。

3月7日の卒業式にも出席できず、後日、校長先生と私たち担任が病院へ行って病院で卒業証書を授与しましたが、その表情はまだ暗く、卒業証書を手にする喜びは感じられず、震災によるショックの大きさを感しました。

しかしその後の回復はめざましく、現在は大阪府立心身障害者福祉センター付属病院に転院し、車椅子に乗ってのリハビリに励んでいます。当初心配していた車椅子の操作も比較的上手にできるようになり、表情にも明るさがもどってきました。6月にお見舞いに行った際には、ずいぶん元気に話もでき、入院しておられる人とも、あいさつを交わすなどの以前の宮地くんの表情にもどってきました。その時に、全国からいただいたはげましに対してメッセージを書いてくれました。思わぬ被災で、肉親のお母さんを亡くし、自らも身体障害という新たな障害を負うことになった彼にとって、これからの人生は、想像を絶する困難があると思いますが、きっと持ち前のまじめさとねばり強さでがんばってくれることでしょう。がんばれ、宮地くん !!



	あ	は	け	う	は
	か	が	っ	い	け
	く	こ	ん	ま	し
	あ	い	え	し	あ
	い	ま	け	あ	り
	い	す	ん	が	き
	ん		ご	ら	い
	し		に	と	う
	う		り	う	ほ
	あ		ハ	ほ	く
	あ		ど	く	は
	る		り	は	い
	き		に	い	び
	た		に	び	ま
	たい		が	び	ま
	い		ん	ま	ま
	て		ん	ま	ま

宮地友一



三年F組 名前 佐藤 亮

1月17日のじしんのとキはじめてにド
インキキでからりよつにやりゆらと
きました。ぼくはすこいおさまる
までつとんをかぶっていました。
ふとんからかおを出すと(わらわは)
にものがおちていました。その上を
ろんでおちちゅうでそとに出ました。
みんな出ていました。キよついく
かいかんにひなんしました。
おしんがなおまっても夜になると
こわくてパジャマにもまがえないで
ごんちを手にしてかすくと一しどを
みていました。おつじしんは
おきないで早くもこの生活に
おどってほしいです。

じしんのとキのこと

三年B組 名前

大月 祥 徳

1月17日はまさしく16時過ぎにじしんがありました。
がちよこニワウチです。ものはしなまのぐらうをわ
りました。ビルもつぶれました。大アレビニ来ました。
にがれ、ぼくの今のテレビは壊れました。あま早く
おきました。じしんわしえます。じしん物はあきました。
がみながんばて下ナリ。みながんばて下ナリ。
みんちがんばれ。みんちがわいりりっぽう

三年F組 名前

筒井 秀 雄

朝寝しているときものすごい大きな地震が来て、タンスやら、家具やら、皆んなたおれて来て、真っ暗で、こわかったです。明るくなつてから皆んなで片付けて、ガラスがあがなかつたです。毎日交通公園に水をくみに何回も何回も行きました。山村さんのおばちゃんのおいにお風呂に入りに行きました。

		家	に	ん	は	家	外	が	ん	ま	時	わ			
		で	行	と		の	が	て	に	し		か	び	私	1
		テ	き	私	お	前	明	い	入	た	び			は	月
		し	ま	は	父	に	か	で	リ			た	く		17
		じ	し		さ	に	る	ん	ま	お	く		リ	地	日
		を	た	と	ん	げ	く	を	し	父	リ	私	し	震	5
		み	田	な	と	ま	な	し	た	さ	し	か	ま	か	時
		ま	中	リ		し	ま		ん	て	ね	し	お		46
		し	さ	の	お	た	て	し	で	の	し	て	た	き	分
		た	ん	い	母		か	た	ん	小	ま	い		た	
			の	え	さ	私	ら		き	と	い	た	こ	時	

2年組出口録

	を	力	出	が	の	外	が	た	倒	落	コ	暴		分		
	取	ツ	ま	か	家	に	お	れ	と	ツ	れ	地	59	1		
	リ	夕	せ	た	に	逃	き	お	ま	し	プ	た	震	秒	月	
	に	し	ん	む	行	げ	て	父	し	ま	と		が		17	
	行	く	で	き	ま		さ	た	し	お	ビ	あ	高	日		
	き	と	し	ま	ま	し	早	ん		た	皿	デ	つ	火		
	ま	ス	た	し	した	く	と	寝		と	オ	た	年	曜		
	し	プ		た	た		着	お	て	夕	電	テ	時	日		
	た	レ				と	替	母	い	ン	話	1	竹	5		
			1	階	水	部	な	え	さ	ま	ス	機	プ	僕	森	時
			缶	にも	屋	リ	て	ん	し	が	を	と	は	敦	46	

			れ	暖	方	し	み	く	ま	水	な	カ	ス	し	い
			て	か	に	た	の	な	し	道	ど	テ	カ	た	月
			よ	か	行	。	お	。	た	お	も	レ	本	。	川
			か	。	き	学	の	た	。	が	た	ど	だ	夕	日
			。	た	ま	校	温	の	お	ス	お	カ	な	ン	の
			た	。	し	が	せ	で	風	が	れ	ど	お	ス	朝
			で	温	た	休	ん	お	召	出	ま	デ	食	カ	震
			す	せ	。	み	に	母	に	な	し	オ	器	人	が
			ん	お	の	行	さ	入	く	た	ケ	と	刑	あ	
			に	湯	時	き	ん	れ	な	。	い	た	ケ	り	
			人	か	夕	ま	と	な	り		ス	な	い	ま	

高2年 金子 友美

	カ	。	た	え	し	せ	す	す	た	し	け	お	。		
	わ	。	。	ひ	た	ん	と	か	お	た	い	か	。	土	い
	い	。	お	お	。	。	す	わ	れ	。	ま	お	。	層	月
	え	。	ひ	ひ	お	み	れ	れ	て	た	し	さ	。	か	川
	。	か	ん	ろ	お	お	ひ	ひ	ひ	ん	た	ん	お	お	日
	ひ	。	ひ	に	え	。	。	れ	す	。	に	て	。	。	。
	し	。	ひ	は	ち	み	か	ま	し	と	え	お	。	た	時
	た	か	。	れ	か	に	ひ	し	た	。	。	こ	ま	時	46
	。	。	。	ま	ん	れ	て	た	。	。	に	し	れ		分
			た	れ	ま	の	き	れ	。	か	ひ	ひ	て	た	
			。	た	れ	れ	ま	ま	か	。	か	ま	。		

2年 山根 永洋 司

	か	学	ま	な	え	な	で	ト	で	電	ま	ふ	か	た	地
	ス	校	つ	き	り	へ	し	イ	し	気	し	つ	へ	ん	震
	ヤ	が	暗	ま	ま	も	た	し	た	も	た	だ	に	す	音
	水	休	で	し	し	ひ	の	の	き	の	ん	ひ	か	が	之
	も	で	し	た	た	つ	水		え		も	ひ	た	年	
	ま	で	た	の	の	く	か		て			か	お	城	
	せ	し	の			り	な		つ			で	れ	戸	
	ん	た				か	か		き		中	き	ま	朱	
	で	の				え	れ		ま		か	ま	し	呂	
	し					り	ま		せ		ら	し	た		
	た					ま	ん		ん		お	た	た		

		長	水	え	ん	い	か	の	家	に	ま	途	ち	地	
		い	や	る	と	ま	つ	中	は	泊	し	中	ヤ	震	1
		間	が	よ	一	せ	た	は	地	ま	た	で	ん	が	月
		か	ス	う	緒	ん	の	真	震	り	が	し	は	あ	17
		か	も	に	に	の	水	つ	が	ま	た	早	の	日	
		り	復	な	水	ぼ	暗	あ	し	翌	の	朝	た	5	
		ま	旧	り	を	く	が	で	た	日	車	登	時	時	
		し	す	ま	く	は	ス	す	た	ぼ	か	山		46	
		た	る	し	ん	お	も	の	時	ぼ	く	ら	へ	お	分
		の	ま	た	下	父	出	こ	の	く	の	に	行	じ	
			で	の	使	さ	て	わ	家	の	家	げ	く	い	

高2 塚田洋史

3. 保護者の手記

Kさん

昨日の事の様にも、ずっと以前の事の様にもおもいます。子どもに「朝よ」と起こされ温泉卵を作った後でした。火を消していたから良かったもののガスをつけた状態だったらと思うと今更ながらゾーッとします。その時は朝食の支度も終わり、子どもの見ているビデオを主人と一緒に見ていました。その瞬間、縦揺れ、横揺れ、真っ暗になった中、落ちる音、倒れる音、食器の割れる音等が錯綜していました。クリスマス用のローソクがあそこにあったはず、と捜しあて、灯をつけて地震の凄さに驚きました。子どもはテレビを落ちないように押さえていました。

電気がついてからはテレビのニュースで被害の大きさを知り、まだ家の中だけで家族全員無事でよかったねと喜びました。でもニュースを見るにつけ、なぜか涙が出て止まりませんでした。主人の叔母が中央区に従兄と居ますので無事かどうか心配でした。ニュースや新聞をみても名前が出ませんので最初は安心していましたが、田舎からの連絡で亡くなったと聞き、あんなに子どものことを心配してくれていたのに、お正月に連れて行っておけばと悔やんでいます。従兄は神戸の病院から転送され加古川の市民病院に入院しています。いまだに見舞いにも行けてませんが、従兄が退院してから皆でお葬式をしようということになっています。

2月17日に地震が来るらしいよというデマにも、身のまわりの物はイザという時の為に用意しておいた方がいいときいて、おおきなスポーツバックには衣類を入れ、避難袋には水、手袋、保健、救急用品とかを入れ、ガスコンロ等と足元に置いていましたら、主人から「お前はアホか」かわれました。家が狭いのに邪魔になりますし、3月4日に衣類は片付けましたが、でもまだベランダには、地震のあとの名残の水がポリタンクに、湯冷ましがペットボトルに6本位置いたままになっています。ベランダの植木はいまだに片づいていません。(又来るかもしれないと思ってほうっています) 尼崎でも亡くなられた方がおられますが、神戸～西宮に比べれば、まだ被害は少なかったほうです。被災され避難されている皆様にはまだ、これからが大変だろうと思います。どうかお身体には気をつけられ頑張ってください。

子どもと主人に起こされてなかったなら、また3人とも寝ていたら大怪我をしていたと思います。子どもの早起きには、この時ばかりは感謝しました。

Hさん

1月17日午前5時46分、主人が早く家をでる日で、起きようかなと布団の中でグズグズしていた時、ドーンという音と突き上げられた感じ、その後グラグラときて私の横にあった衣紋掛けが倒れてきました。横に寝ていた子どもを見るとグーグー寝ています。主人もあまり動じませんでした。二階のお兄ちゃんとお姉ちゃんが降りて来ましたが、真っ暗で、懐中電灯をとりに行くにも食器棚が倒れて前を塞いでいて、もう一つの懐中電灯もどこへ行ったかわからない状態、ロー

ソクも危険で、お姉ちゃんが目覚し時計についている明かりをたよりに台所に行くと、食器が落ち、ガラスや食器片が散乱していました。

外からは、津波が来るかも知れないから気をつけてという男の人の声が聞こえてきました。何もできずにオロオロしているうちに夜が明け、電気もついたのでテレビを通じて大変な事が起こった事を知りました。近所の親しくしている奥さんが来てくれて、ご主人が危機一髪のところで阪神高速から落ちるところだったと聞いて、ゾォーと背筋が寒くなりました。幸いなことに近所には倒れた家もなく、道路が盛り上がり、門が倒れたりという程度でした。主人が食器棚を起こして、ほとんど割れた食器の片付けをと掃除機で破片を吸い込ませていると、子どもは布団の中で異様な雰囲気不安がって、こわいという言葉が言えないので「自動車にのりたい！電車に乗りたいたい！」と叫んでいました。水道もガスも止まり、お兄ちゃんに水を買って行ってくれましたが、コンビニはすでに売り切れ、電話も通じず母が公衆電話からかけてくれたのが唯一のものでした。主人の実家の母が朝からかけてくれたらしいのですが、一切かからず、もう死んだと思ったらしく夜の8時に通じた時は涙声でした。

あれから2ヶ月、水汲みとカセットコンロの不自由な生活、おまけにお風呂に入れない今まで経験した事のない出来事に水やガスのありがたさを感じました。初めて学校に行った日、沿道の家々が倒壊しているのにショックを覚えました。テレビで見るより凄惨な事になっていました。神戸はもっとひどいのでしょうか。学生時代の思い出がよみがえり涙しました。

地域教室が開かれ（この間、先生方ご苦労さまでした）、また学校へも行けるようになり、給食も始まって、今学期は自宅待機かとあきらめていただけに、本当に学校の再開は嬉しかったです。あれだけの地震のショックや余震のおびえも減ってきています。元の生活に戻りかけて、地震で体得した大切なものを、忘れかけている私に反省する日々です。

Mさん

激しい上下の揺れで私が目を覚ました直後、子どもも目を覚まし、すぐ立ち上がりかけたが大きな横揺れに足を取られて立ち上がれず、また布団にもぐり込んだ。娘も目を覚まして「お母さんこれ何？」「地震と思うわ。でもお母さんもこんな大きいのははじめてや。」「どうしよう？」「布団かぶってじっとしてなしゃあない。大丈夫、大丈夫。」とは言ったが今まで聞いたことがないゴォーという地鳴りの音と共にブランコに乗っているような大きな揺れ。ほんまに大丈夫かなと内心不安な母でした。

その時子どもがウフフと笑い出した。顔をのぞくと本当に楽しそうにニコニコ。「????」どうもトランポリンで遊んでいるようだったらしい。そして電気が消えて真っ暗になった。揺れがおさまるまでの時間がとても長く感じられた。

子どもが再び立ち上がり、トイレにいこうとした。枕元の懐中電灯を持って私も一緒に行きか

けてびっくり。いろんなものが倒れて通り道がない！。なんとかトイレに連れていき、布団に入れて、私は懐中電灯の明かりを頼りに片付けを開始。倒れている食器棚を起こすと、下には割れた食器がいっぱい。片付けていると子どもが起きてきて「ビデオをかけて」とせがむ。「停電しているから映らないの。」と言っても理解してくれない。ガラスを拾っている母の手を引っ張る。「ダメッ、危ないから布団にはいっときなさい。」もちろん通じない。ウンギャーと怒りくるって私に体当たりしてくる。危ないから早く片付けないといけないのに、子どもは訳が分からず、怒るので、この時が一番大変だった。2時間くらいで電気がついた時本当にありがたかった。

どの部屋も東側の家具がほとんど倒れていた。わが家では家具を一室に集め、他の部屋を広く使うようにしている。特に寝室には何も置かないようにしているので、地震の揺れの間、こんなに家具が倒れているとは思わなかった。その日はニュースを聞きながら夜中までかかって片付けた。私の地域ではベランダから見る限り、倒壊家屋がないのでニュースが現実の事とは思えなかった。今でも起こったことが大きすぎて実感が無い。幸運にも家が無事だったおかげでしょう。

学校の方から、校舎の安全性が確保されるまで再開のメドが立たないと言われた時、目の前が真っ暗になりました。校舎も使用できない、道路も寸断、水もない。それゆえ見通しがたたないと言われた時、正直に言わせていただくと腹が立ちました。それは事実でしょうが、だからと言ってみんなが転校や移住ができる訳がない。この大地震があっても、やはりこの場所で生きていきたい、ここで生きて行かねばならぬ親がいて子どもたちがいる。

何も出来ないではなく、校舎が無くても出来ることは何だろう。バスが動かなくても出来ることはないか。先生方が本当に子どもの立場にたって今後のことを考えて下さっているのだろうか。地域教室が始まっても学校への不信感がありました。

でもそれは杞憂でした。鳴尾浜の県立総合体育館、地域教室の先生方は液状化した泥が乾いた激しい土ぼこりの中、とても熱心に子どもたちを受け止めてくださいました。また想像していたよりも早く、西宮にもバスが走ることになりました。こんな道路渋滞の中、甲子園からのターミナル方式でのバス運行だろうと思っていました。ところが何度か試走して下さり、通常の逆コースで東行きでなら何とか子どもたちを乗せることができると判断されたコースで大方の子どもたちがバスで通学できる事になりました。私は先生方の「どうしても子どもたちを学校に来させたい。」いとう強い意志を感じ、とても嬉しくなりました。阪神養護の先生におまかせして大丈夫、何とかして下さると、安心することができました。

阪神養護が地域教室を開催しました、それに呼応して西宮の就学前の施設も地域で保育することになりました。同じように阪神養護のスクールバスが動いた結果、西宮養護やわかば園、北山学園の動きも早まりました。

先の見えない状況で大変だったろうと思います。だけど素早くいろんな対応をしてくださいました。本当にありがとうございました。

Mさん

そろそろ起きようと布団の中、「アッ、地震だ。いつもと違う。大きい！！」このマンションつぶれるかもしれない。死ぬのかなと身動き出来ずに思いました。

揺れがおさまって、子どもを呼んでも声がない。駄目か？ 何度もよびかける。「ウーウーン」と小さな声、生きてる、待ってよ、ちょっと待ってよ。と動こうとするが重くて中々立ち上がれない。

タンスが横倒しになって、子どもと私の上に乗って。怪我は？「出ておいで、母さんがすぐ助けるから、待ってよ」と言っていると、どこからか出てきました。「あーあ、よかった」タンス2本は横に倒れ、布団の上はガラス片をはじめ色んなものが飛び散っていました。でも二人とも傷も怪我もなく、なんと不死身なのでしょう。

居間はもっとグチャグチャ。ホットプレート、電気ポット、炊飯器、米櫃はひっくり返し、あちこち飛んでるし、ガラス戸の戸棚は横倒し、ガラスが粉々に飛び散り、米も飛び散り、ローソクの明かりで少しずつ、足の踏み場のなくなった部屋を怪我のないように、必死で片付け、仕事も休みました。

家族（主人をのぞく）は、皆無事でほっとしました。翌日の朝8時過ぎ、主人からやっと電話が入り、元気とわかりほっとため息、何よりでした。

今度の事で、明日に何が起こるか分からない。人間の運命は、本当に分からないなあー。とつくづく思いました。

子どもたちに光がささないと言うか、しわ寄せが一番くるのだなーと改めて感じもしました。

Nさん 避難先（愛知一宮）からのたより

先日は道のひどい中、わざわざ訪ねて下さりありがとうございました。

夙川の同じ建物の1階にいたのに、連絡もできずご心配おかけして申し訳なく思っています。なにしろ、家の中はこわれた食器とガラスで危ないのと、余震でグラグラこわくて3階のわが家まで帰れなくて、日が過ぎてしまっていました。学校の方ではまさか家に訪ねてこられるほど心配して下さってとは思わなかったので（それぞれ先生方も大変な状態だと思われるのに）とても嬉しくて、本当に涙が出そうなくらいでした。社宅では4軒が水も食料も心配な折から、共同生活で水汲み係や買い出し係やら決めて、合宿生活のような楽しい（と思ってしまうような）生活でした。しかしアトピーの次男には、お水が出ないことは致命傷なので単身赴任の主人の一宮の社宅に避難することにしました。

地震の時は、私と次男の上に和ダンスや飾り棚が降ってきて、先生と同じように身動きがとれませんでした。とにかく次男は助けなければと“火事場の糞力”でダンスをどけて、次男の名

を叫びました。次男の手を布団の中でさわってガタガタ震えているのをようやく引っ張り出すと、暗がりのなかなんとか無事のようにです。ガラスと本の山の廊下しか脱出する道はなくて、怖がっているのを「大丈夫やから」と励まして脱出しました。その間に兄は隣の家からいち早く飛び出してドアをドンドン、「お母さん、みんな大丈夫か。」と何度もどなっていました。やっと外に出ると今度は靴がとれなくて、玄関はガラスと水の海で、とれた靴はぬれていたりで、そのうえ次男はスッポンポンで寝るくせで下はすっ裸、兄の部屋からジャージと靴を持ってきて、やっと1階へ逃げました。家中家具が倒れて何も持ち出せなかったのも、車にも乗れず、近所の人車で暖をとらせてもらって、夜の明けるのを待ちました。それまでに社宅の男の人がブレーカーを下ろしてくれたり、社宅の元栓を閉めてくれたり、近所へジュースを買いに行ってくれたり、励ましてくれたり、とても世話になって、なんとか何日か暮らせました。こんな時は本当に人は助け合って、わがままもおさえて暮らせるものだなあと、人間の素晴らしいところを発見できました。次男も少しでも役に立とうと水汲みに何度か行ったりしました。

3年生の宮地君は、お母さんが亡くなられた上、本人も片足を切断したとのこと、胸がしめつけられる思いです。人事ではなく我が家も中古の一戸建を探していたので、自分たちも同じことになっていたかもしれません。

当日、夜が明けて外を歩くと思っていたよりもっとひどい状況が目にとびこんで、阪急電車の線路が垂れ下がり、古い木造家屋はあちこち半壊か全壊で、とても現実のものとは思えませんでした。長男も近所の救助活動に少し加わっていましたが、社宅の方も小さい子が多いし、次男もいるので社宅の方で働いてもらいとても助かりました。そのうちお父さんが単身赴任先の一宮から、心配して帰って来てくれて、ホッとしました。

そんな中、いろんな人が心配して電話を下さったり、先生方も訪ねて下さったり、会社からも救援物資が届いたりして、人の情けに嬉しくなったり、涙ぐんだりしました。まだ西宮の人たちは、水なしで頑張っているのに、私たちだけが一宮でのうのうとして悪い気がしますが、これが最善の道だと思います。西宮へはいずれ帰るので帰った時に何か恩返しができると思います。

次男はずいぶん落ち着いて（昼寝が多いですが）、人の目をしっかり見て言葉を聞こうとしたり、言葉らしきものをしきりに言っていたり、こわーい目にあつたのに、人を困らせたりせずによく頑張ってきました。今はすっかりおちついてます。地震直後は下痢性のインフルエンザにかかり、1週間ほど下痢つづきで、一時はやせて心配（食事もあまりのどを通らなくて）しましたが、今はおなかもふっくらしているくらいです。西宮へは水道の通じ方しだいで、いつ帰るか分かりませんが、帰った時はよろしく願いいたします。

今回の地震で自分たちの奢った生活や、無駄にしていたことなど、しっかり見つめ反省することができました。また人の助け合いとかをしっかりと体験できたことが良かったと言えることでした。ではお元気で、失礼します。

1月31日

震災、その時思い感じた事

卒業生保護者 小原 冷子

悪夢のような、あの大地震から5ヶ月たった今でも、大地震の恐ろしさ、すごさは忘れる事ができません。世の中に、こんな激しい揺れがあったとは、思ってもみませんでした。わが家は、マンションの5階、しかも、震度7の地域です。家の中は倒れないものはないくらい、ことごとく倒れてこわれ、倒れなかった大型の本棚とピアノは、部屋の真ん中まで移動し、見るも無惨な状態でした。また洗面所の温水器が大あばれして、壁をこわし、大穴をあけ、パイプも折れて水があふれ、家の中の半分以上が水浸しとなり、それにガラスの破片と洗剤が混ざり合って、とても危険な状態でした。じゅうたんが乾くまでの長い間、室内も靴で生活していました。

ガスも電気も水道も止まってしまい、おまけに、買物に行っても食べ物は売り切れで、当日はろうそく1本のあかりで、家族5人3食ともクッキーをたべました。

翌日、電気はきたものの、ガスが来るまでには随分長くかかりました。この間一番困ったことは、何と言ってもお風呂でした。時間制限があったり、並んで待たなければならず、18歳の障害のある男の子を連れていけるお風呂屋さんはありません。仕方なく、大阪の親戚へもらい湯に電車で出かけました。それでも何度も行くことは出来ず、4～5日は我慢しました。その後2週間位たって温水器の修理が終わりました。これでやっとお風呂の件は落ち着きました。

次に困った事は、学校も28日まで休校になってしまった事でした。2～3日は何も手につかず、呆然としていましたが、こわれたものの片付けをしなくてはならず、親は忙しいのですが、本人は何もすることもなく、5日も家にいると、学校に行けないということが、とても不安でさみしくて、落ち着かなくなってきました。本人の安定のために、家の中はあとにして近くの授産施設へ親子で、ボランティアに出かけました。所員の人たちと一緒に仕事をさせてもらって、随分落ち着いてきました。3～4日過ぎた頃、学校側の対応として地域教室を開いて頂き、楽しく通わせてもらいましたが、それも束の間、学校も被害が大きかったようですが、使用できるところを使って出来る限り学校で授業を再開しようという事になり、震災後16日にして、やっと、待望の学校へ通えるようになりました。

卒業前の大切な時期、学習発表会も結合実習も中止のなか、卒業式を迎えて大好きだった学校や友達とも別れてしまいました。

口には出して言わないけれど、心の傷はきっと大きく、こわれた建物を見ては「地震でこわれた」と指をさすことが多くありました。こだわりのきつい子が、不安な生活を強いられても、何ひとつ要求せずにいるのを見ると、どんな時でも、この子たちが安心して生活したり、通っていける場が必要だと痛感させられました。大地震で困ったり、大変な思いも沢山しましたが、人の優しさや暖かさ、身にしみて感じる事ができました。

この子たちのこれから先の人生、どんな事があるかもわかりませんが、弱い立場の人でも安心して、すこやかに生活できる世の中であって欲しいと願わずにはられません。

大震災 障害児はどう反応したか

卒業生保護者 田村七穂子

下からドーンと突き上げる揺れに「これは何？」そう思った瞬間、ドーン、ガチャーン、ドスンとすさまじい音。そして不気味な静寂。「地震なんだ！」やっとなりに返り、静は大丈夫だろうかと思いをすると、私と静の上には高さ 180cmの本棚が二つとも倒れており、静の頭の周りには本棚の上に積んであった分厚い百科辞典が散らばっていました。恐ろしくなって「静！静！大丈夫？」と叫ぶと「いやーの、いやーの」と声を出したのでホッとして、とりあえず布団の上に山と化した本と本棚を必死で起こそうとしました。あいにく夫は夜勤でいなかったもので、一人で無我夢中になって起こしました。打撲もあったかも知れませんが、全身で力をふりしぼって起こしたのか、後日全身が痛いこと痛いこと!!。

当方は25階建ての高層団地の20階に住んでいますので相当の揺れだったのでしょう。居間を見ますと足の踏み場もない有り様です。食器棚は倒れ、陶器やガラスも割れ、金魚の水槽も割れてカーペットはびしょぬれ。何から手を付けてよいのか戸惑うばかりでした。

静は布団からも出ず、夢の中か、そのまま眠ってしまったようでした。

彼女には何が起きたのか理解すべくもなく、ただ生活の激変を強いられ、毎日が決まったパターンの中で平安を得ていた静にとって、この事がどれほどの影響を与えるのか、この時点ではまだ私にも予測できませんでした。部屋の様子の異常、大人たちの不安、刻々と惨状を伝えるテレビ、そのどれもが静には不安と恐れを抱かせるものだったのでしょう。翌日位から食欲がなくなっていき、排尿も一日1回、「ごはんよ！」と呼んでも力なく「いらんの」まさに放心状態。

地震報道のテレビを見るとすぐに消しに行ったり。後日気がついたのですが、セーターの袖口を噛みちぎったりしていたのでした。笑うこともなくなり私も不安が募ってくる日々でした。そんな折、担任の先生のお一人が訪問して下さりました。担任の先生の顔を見て、静は久しぶりに笑ったのです。安堵の一瞬でした。

いよいよ1月31日から、近くの鳴尾浜の県立総合体育館で地域教室が開かれることになりました。学校と期待したのに、全く違う方向に歩いていく私に静は不安気でした。着いてみればそこには阪神養護のお馴染みの先生方の顔と顔、そしてお友達。翌日からは大好きな音楽の授業も始まって、ようやく本来の静に戻りつつあるようでした。さらに慣れた頃の2月9日からは従来のバス停では無理でしたが、何とかスクールバスで通学できるようになりました。逆方向の暫定バス停へと歩いていく毎日が始まりました。静にとって学校生活の再開は震災前の生活への第一歩だったに違いありません。震災後のストレスが嘘のように、現在は毎日元気に「いずみ園」に通っております。

今回のような非常事態に臨み、子どもにとって学校生活のウエイトがいかに大きく、また平穏な生活の一部を成していたのか、静の回復を通してそれを知ることができました。学校再開に向けてご尽力下さった学校と先生方に改めてお礼を申し上げたいと思います。有難うございました。

4. 教 職 員 の 手 記

救 出 さ れ て

須 藤 年 雄

その日は朝5時から起き、当日行われることになっていた「学習発表会」の練習のための小道具の作成に追われるはずでした。すでに5時半には用意を済ませ、いつでも出勤できる状態だったのですが、寒さから「あと5分したら行こう」を2・3回繰り返して、なかなかコタツから抜け出さずにいました。そして、「さあ、行くぞ」と自らに気合を入れて立ち上がった瞬間、カタカタという横揺れを、ほんの5秒ほど感じました。その時は「おっ、久しぶりの地震かな？」と呑気に考えていました。

すぐさま、遠くの方からゴウオーという地鳴りが聞こえ、家の床といわず、壁や天井から反響して、思わず「でかいぞ」と独りでつぶやいていました。次の瞬間、縦の強烈なゆれが二度三度起こり、天井や壁が崩れ落ちてきたり、床の畳が真っ二つに割れたりし、生まれてはじめて「生きる」という事に対して「ヤバイことになったぞ」と感じていました。自分の身体がどう動いたのか全く分からないのですが、気づいた時には、二階の天井を腕立て伏せの状態でも必死に踏ん張っていました。腕にはかなりの重圧がかかっていた。揺れがおさまった事に気づくと、「何とか助かっている、命は無事だ」と暗闇の中でほっとしていました。

揺れがおさまってから、わずかな時間、シーンと静まりかえっていました。やがて警報機の冷たい音や、近所の人たちの「助けてくれー、助けてー」と泣き叫ぶ声が、自分から冷静さを奪い取り、同じように大声で叫び続けました。しかし、誰も自分の存在に気づいてくれないのです。どこからともなくガスの臭いが立ち込めてきました。「あー、俺も、終わりか」と心の中でつぶやいていました。小さな頃のこと、大学生の頃のこと、阪神養護に勤め始めた頃のこと、自分の人生を瞬時に振り返り懺悔していました。何とかしようとしても、どうにもならないのです。火事場の糞力もありません。あったのはまさしく自然の力の大きさと人間、自分というものは小っぼけな生きものだという事だけでした。幸い、ガスは瓦礫の中を風に流されていきました。

その後、3時間程してやっと近所の人に気づいて貰え、昼過ぎにようやく光を見ることができました。倒れた食器棚のために両手を切っていたり、天井が落ちてきた時に思い切り踏ん張ったためか、前歯2本を折っていたりしましたが、何とか無事で、太陽の光を見れた嬉しさは今も忘れられません。救出されたあと、外の光景を見て、改めて事の大きさに気づきました。10年程前に建てられた近所のマンションや一軒家はことごとく倒れ、煙をあげていました。道が割れ、電柱が倒れ、助けだされた人々が道端にうつろに座り込んでいました。

ホッとしたのも束の間、今度は私を救出して下さった近所の人たちと一緒に、電気ノコギリとバールを手に、まだ救助されていない家を回ることになりました。夕方までに10軒は回ったでしょうか、ノコギリの刃はボロボロで使えなくなっていました。

何気なく生活していた日々だったこれまでとは違い、今自分が何をしなければならないのか、生きるという本当の力は何なのかを、考えさせられた地震となりました。

子どもらに 風呂を

竹内 晃 仁

震災以後、「何をどうしてよいやら?」「何から手をつけてよいやら?」「いったい、自分に何ができるんやろうか?」と日々、ただ、漠然と過ごしていました。

そんな折、中学部の先生方が「三田谷の子どもたちを風呂に入れたらへんか?」と話されているのを聞き、自分に何か手伝えることがあればと、その話の中に加えていただきました。

震災後一週間が過ぎ、まだガス・水道の復旧のメドが全く立たず、本館と児童寮が全壊し、成人施設を間借りするという形で避難しておりました。三田谷の先生方は東奔西走されているにもかかわらず、いつ入浴できるかわからないほど、衛生状態も悪く、「子ども達の顔も垢で汚れていた。」と三田谷に行った先生が言われる程でした。情ないことですが、その時初めて知ったことでした。

その場で、「1月26日に行くぞ!!」と決まり、即、「湯はどうやって沸かす?」「餅つきの大釜があるやろ!!」「水はどうする?」「段上町の近くに浄水場があるからポリタンクに汲んで」「薪は、餅つきのオガライトが残っとる」「足らん分は、三田谷さんのくずしている建物から貰るやろ」と日頃のチームワーク(?)よろしく準備が進んでいきました。

26日は成人寮の寮生が、京都の温泉地へ9泊10日で招待されて避難して行く日でした。三田谷治療教育院の中庭には、バス・先導のためのパトカー、それに久しぶりの明るい話題で取材に来ていたテレビ局の取材車でごった返していました。

皆で湯を沸かし、バケツリレーで風呂場に湯を運び、先ずは女子から入れることにしました。「思いの外、浴槽に入れる湯がいるでェ」「水が足らん!!」「二人も入ったら湯がまっ黒や!!」と戦場さながらです、足りない水は、飲料水用にとポリタンクに蓄えてあった水を回して頂いて、何とか水は足りました。皆が右往左往して働いているというのに、火の番をしながら「酒持ってきたらよかった。大釜に一升瓶入れとけば、燗出来んのに、勿体ない」「みんなでご機嫌さんてどう!!」「近所に酒屋ないんか!!」と呑気な話を、せわしなく湯を運んでいる先生方としていると、テレビ局の人から真顔でしかも標準語で「“ご機嫌さん!!”という言葉が地震以来久しぶりに聞いた。」と話しかけられ、「私たちも、久しく自宅に帰っていない。」「いつになれば、普段の生活ができるのかな?」……今まで通りの生活に戻るのに何年かかるんやろか? いつまでこんな状況が続くんやろか? 戦中・戦後の話は祖母らから聞いてはいたものの、自分が同じような経験をすると、と、そんな色々な事を考えながら黙々と(?)湯を沸かし続けました。

風呂から上がった子どもたちのさっぱりした顔、「先生、気持ちよかった」と話しかけてくる生徒、風呂上がり走り回る生徒を追い掛けている先生。ほんの数十秒・数分の出来事で、こんな当たり前のことが、日々の生活の中から消え去り変わってしまうのか。物が氾濫し、有難みに対する感覚がマヒしていた自分にとっては、二度と経験したくない事ですが、違った意味で大切な経験だったと思います。同行を呼びかけて下さった先生方有難うございました。

人と人との結びつき大切さをも学ばせて頂きました、感謝しております。

人間この良きもの

後藤 一郎

西へ行くほど破壊は酷くなっていました。

大地震が起こって3日目の午後でした。どうしても連絡がつかず安否の分からないN君の家へ向かって私は自転車を走らせていました。国道171号線を西進していくと、大きなビルが倒れている。鉄骨が曲がり45度以上も傾いた社屋が歩道にはみ出している。「頭上注意」「ガスもれあり」等の張り紙や立札が至る所にありました。しかも車道は大渋滞の車で一杯です。傾いた建物の下をかいくぐって進むしか方法はありませんでした。N君の住む夙川の方に近づくにつれ、破壊は更に酷く、土壁の家がグシャグシャになってアッチにもコッチにも潰れていました。

171号線が南に旋回し札幌筋に入ります。阪急電車に沿った西に向かう一方通行の道路には、リュックを背負った人、ペットボトルを抱えた人など救援に向かう人々かびっしり一杯になって黙々とただひたすら西へ西へと歩いていました。私は自転車を降り人々の波に押されるように進んで行きました。その辺りは木造の家々がまるでねらわれて爆撃されたように、ところ構わず潰れていました。もうすぐN君の家だ、N君は無事だろうかの思いが募ってきました。が、その矢先、目の前に阪急電車の軌道の土堤が崩れ、レールがグニャリと垂れ下がっている光景を目にしました。私は一瞬ギョッとになって立ちすくんでしまいました。足がだるくなり、体の力が抜けていく感じがしました。もうだめだ、こんなに破壊が酷いんだものN君は……？、胸が締めつけられるというのはこういうことを言うのでしょうか、辛いどうしようもない思いがしたことを今も思いおこします。

幸にしてN君は無事でした。周り中大破壊に会った中に、N君の住むN社の社宅は頑丈な鉄筋コンクリート造りでしたから、健在していました。でも家の中がメチャクチャで住めないで、N君の家族は、社宅の他の家族の所に身を寄せて共同で助け合って生活されていました。「よかったですねえ、よかったですねえ、」私は言いながらも胸を詰まらせ涙を流していました。

その日の夜、学級通信を書きました。『とりあえず、みんな大丈夫でしたよ。命と体だけは無事でしたよ』と。その日から、クラスの子たちの様子を書いては家々へ送るようになりました。家々からは「学校は無事でしたか」「他の学年や学部の人たちもどうしていますか」「いつ学校は始まるのですか」と熱い思いが届けられました。

一日も早く、一刻も早く、学校を再開しなければ……と、他の先生たちも困難な中で出勤して来られました。地域教室の開設、校舎の修復、スクールバスの運行への努力……校務員さんも事務室の方々も給食室の方々も、運転手さんも介助員さんも、みんな“復興”へ頑張ってきました。全国の思いがけない所、四方八方から、沢山の心暖まる支援が届けられました。

「人々はつながり合っている。私たちは一人ではない」との思いと、「失ったものは多かったけれど“人間この良きもの”との自信を与えられた」の思いが今も胸を浸しています。

遅しさと優しさに支えられて

前進路指導部長 西岡 英一

1月17日午前5時46分、下から突き上げられるような地響きに飛び起きる。その瞬間、四方八方から物が飛び跳ねるように倒れ落ちてきた。一家4人倒れ落ちてきた物の下から這い出し、かろうじて外へ脱出、自家用車に避難し、家族全員の無事にホッと、カーラジオから流れてくる状況を聞きつつ大変なことが起こったことだけは実感できた。

通勤時間になり、学校の様子も気にかかり、隆起陥没した凸凹の道路が続くなか学校に到着する。どこから手を付けていいのか分からないような職員室であった。生徒の安否、職員の安否、卒業生の安否、生徒たちの進路のこと、職場の状況、今後の状況など頭の中で錯綜する。

帰宅後、当面の食料・飲料水確保のためスーパーの長蛇の列に3時間加わりパンと水を得る。

対策委員会での話し合いの結果と進路指導部としての分掌上の性格から、生徒の安否確認、連絡の取れない教職員の安否確認、高3の生徒の進路保障のため福祉事務所・福祉施設・作業所等の被災状況把握に阪神間各市をバイクで回ることとなる。

被災地の状況は予想以上で、国道筋はリュックを背負った人々が、倒壊が街路樹でとまった家屋を避けつつ被災地へと向かう光景、伝え聞くところの終戦直後の買い出しの風景とはこういうものだったのだろうか。その中をバイクで10日間走り回った、その距離600^{キロ}。当時は勿論営業している食堂もなく、避難所となっている体育館で貰ったおにぎり1個の何とありがたかったことか。水のひとつも持たず訪問するのは気がひけたが、安否確認に回るなかで、笑顔で迎えてくれる元気な生徒や保護者の姿に元気づけられたり、倒壊した家屋に残された避難先のメモを見て一安心したりすることが度々あった。福祉事務所の皆さんも現場に駆り出され慌ただしいなか、私の訪問に快く応対して下さり、何度ありがたく思ったことか。

阪神間の施設・作業所は余り大きな被害もなく、ライフラインの復旧を待たず作業を再開する施設・作業所もあった。芦屋では、福祉事務所が機能しておらず状況がなかなかつかめなかった。卒業生の国田さんと児童施設の職員1名が亡くなられ、建物にも被害があった。デイ・サービスセンターなどの施設は地域住民らの避難所に当てられていた。再開のメドはいつになるか不明の状況であった。西宮では、建物の被害は最小限でも、施設利用者3名が亡くなっていた。公的施設は障害者とその家族の避難所に割り当てられ、民間の作業所は障害者を抱えていては保護者の方の活動ができないだろうと、ライフラインが復旧しないうちから作業を開始していた。その中で「学校も大変でしょう。通所できる生徒がいれば来させてもらっていいですよ。」と言って下さる作業所もあった。宝塚でも施設利用者が1名が亡くなっていた。西宮と同様保護者の活動を保障するため震災後3日目より作業を開始していた。また親の会が中心になって本校が再開するまで本校の生徒を積極的に施設で受け入れて下さった。尼崎の施設・作業所には大きな被害もなくまた就職内定の生徒の取消しもなかった。こうして安否を気づかう動きをしていて、施設・作業所の人々の遅しさと優しさに何度も支えられ、困難な状況を何とか乗り越え、生徒の進路が保障されたことに安堵し感謝する日々であった。

ス ク ー ル バ ス が 走 っ た

通学係 梶 井 守

学校再開にむけての課題の第一は、通学路を確保することにあった。それは本校にあっては、とりもなおさずスクールバスをどのように運行させるかということでもあった。

バス運行に向けての努力は、安否確認と並行して震災直後から始まった。しかし交通網を中心にした被害状況の把握も思うようにならず、また校舎の使用についても流動的な状況のなかで、早急なバス運行など到底無理と判断された。ならば教師が地域に出向いてという地域教室での授業再開が先行されたのはそのためである。バス運行のためには校舎使用とか交通渋滞の緩和等を待たねばならなかったが、学校再開を望む声は、児童生徒、保護者、教職員から日増しに高まってきた。その声を励ましとしてバス運行の可能性を探る努力は引き続き行われた。地域教室での授業が始まったころには、被害の全体像がある程度分かってきつつあった。おぼろげながら運行路線図が頭の中で描けるようになってきていた。

1月30・31日全コースのバス試走を行う。登下校時の交通事情把握と運行コースの設定のためであった。その後も交通情報の収集のため自家用車によるコース試走は連日行われた。

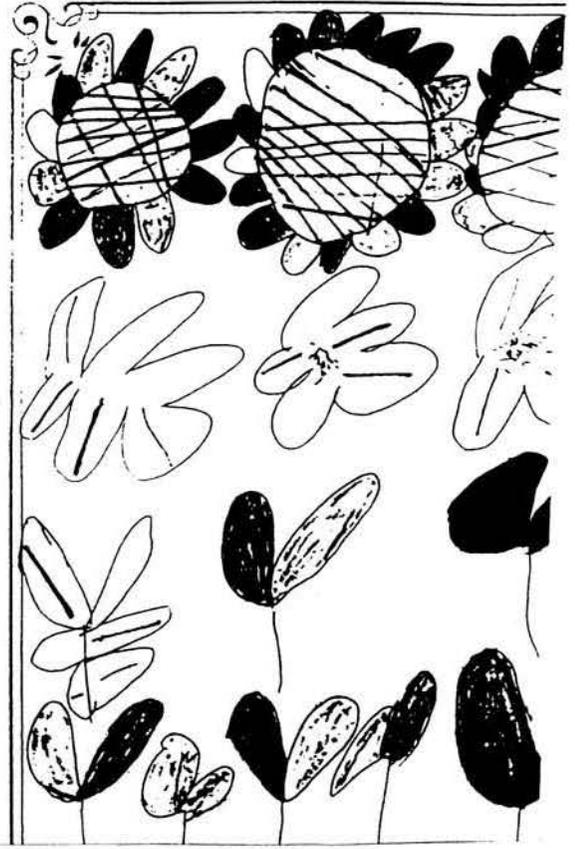
4市（尼崎・西宮・宝塚・芦屋）にまたがる地図に印をいれ、幾本も線を入れたり消したりしてルートを探った。高架橋の落下や道路の陥没等による通行不能は当然のこととして、復旧工事による通行止めなども考慮していかなければならなかった。しかし一番の問題点は、交通渋滞にあった。「できるだけ多くの児童生徒を1時間半程度で登校させる」ことを考えた。試行錯誤ともいえる幾度かの検討の後、尼崎市域に限っての運行開始が2月6日であった。⑦系統は震災前と同じコースだが、時間の大幅な遅れは覚悟していた。⑤⑥系統は路線変更・カットを余儀なくされた。他の4台の系統は3日後の9日にずれ込んだ。これらも大幅な路線変更とカット、逆経路の運行、バス中型変更による抜け道ルートによる運行であった。

見事につきはぎだらけと言ってもいいようなスクールバス運行であったが、なんとか7台のバスは動き始めた。運行後も渋滞のためにバスは大幅に遅れた。2月7日阪神電車脱線、2月25日新交通規制開始日、ともに学校への到着は無理とみてそのまま引き返したり、簡易トイレを教師の車で運んだこともあった。その後も路線変更や手直しの必要に迫られて、何度か変更している。本校の下校パターンである2回下校が実施されるようになったのは6月12日からである。それも1時下校を10分早めることで、何とか3時下校実施が可能になったからである。

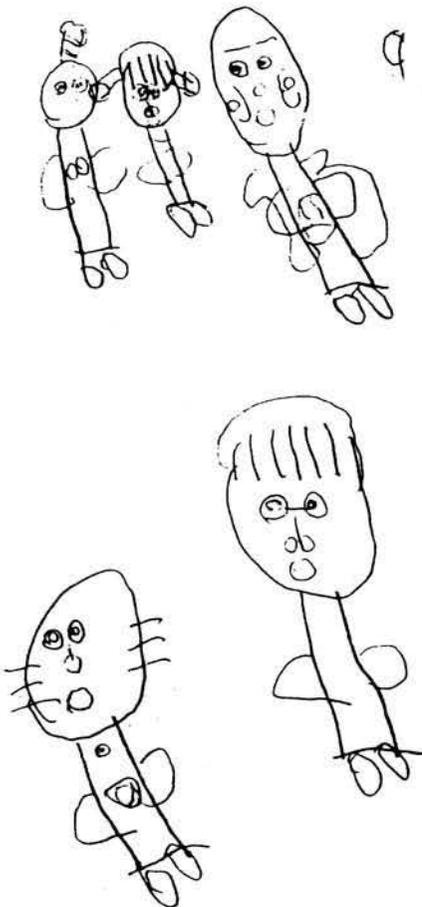
とりあえず、バスは走った。ルートの変更、路線カット等で児童生徒や保護者の皆さんに多大な迷惑をかけながら、それは今も続いている。まだまだ震災の後遺症を引きずっている。7月になりようやく9時15分前後に到着するようになった。1月の試走時、スクールバスに手を振って下さったお母さんの顔には、早く走らせてという願いがあった。今この状態に戻り、運転手さんや介助員の皆さんにはご苦勞を強いていることをお詫びすると同時に感謝する次第です。

◆ Piny-Mu

被災者のみなさんへ
 2年4組 川西真由美
 1月17日(木)私も目がさめました。
 テレビを見たら家がくずれたり、道がわ
 れたり、火事がありました。 
 こわいと思いました。
 こうばの人はいっぱいなんです。
 はやく家がなおって、でんきやガスが
 水もなおって、みんなでおいしいごはん
 が ~~食べ~~ 食べられたらいいのにと思っています。
 がんばってください。



阪神養護学校のみなさまへ



阪神養護学校のみなさん、お元気ですか。
 私達は京都の伏見にある桃山養護学校の生徒です。
 今回の地震は大変でしたね。
 私達は先生を通じて今回の地震で震災を受けた阪神養護
 学校の事を知りました。カレムをはじめ、私達と同じ障害をもった
 仲間がいる阪神養護学校の震災の状況を知り、私達にも
 なにか出来る事があったら支援したいと生徒から声があがりました。
 生徒会で話し合い、阪神養護学校にはびまの多糸氏と文房具を
 送ろうということになりました。
 多糸氏は背けるワズカさんにとりくみました。
 私らの家から文房具もあつりました。わざわざ申し訳ありませんが、
 くれからのみなさんの勉強に少しでも役立ててくれたら、
 幸いです。

ではみなさんまだ余震が続くかも知れませんが、体を大切に
 してがんばってください。

1995年3月13日

京都府立桃山養護学校生徒会

生徒会長 湯浅 正文
 副会長 湯浅 元智
 書記 山崎 智子

義援金・義援物資・お見舞い等を頂いた学校等一覧

- | | | | | |
|-----|------------------|---------------|---------|-----------------|
| 1. | 大阪府立豊中養護学校 | ☎ 06-840-1801 | 〒560 | 豊中市北緑ヶ丘 2-7-1 |
| 2. | 兵庫県立いなみ野養護学校 | ☎0794-92-6161 | 〒675-11 | 加古郡稲美町国安1284-1 |
| 3. | 千葉県立君津養護学校 | ☎0439-55-4333 | 〒299-11 | 君津市北子安 6-14-1 |
| 4. | 東京都立墨田養護学校 | ☎03-3619-4851 | 〒131 | 墨田区八広 5-10-2 |
| 5. | 香川県立丸亀養護学校 | ☎0877-24-1215 | 〒763 | 丸亀市飯野町東分 592-1 |
| 6. | 京都府立与謝の海養護学校 | ☎0772-46-2770 | 〒629-22 | 与謝郡岩滝町男山 |
| 7. | 千葉県立四街道市養護学校 | ☎043-422-2609 | 〒284 | 四街道市鹿渡 934-45 |
| 8. | 東京都立七生養護学校 | ☎0425-91-1095 | 〒191 | 日野市程久保 843 |
| 9. | 滋賀県立草津養護学校 | ☎0775-66-0012 | 〒525 | 草津市南笠町字水呑 |
| 10. | 埼玉県立大宮北養護学校 | ☎048-622-7111 | 〒331 | 大宮市大字中釘後谷2290 |
| 11. | 新潟県立高等養護学校 | ☎025-381-0077 | 〒950-01 | 新潟市北山字堀西 1510 |
| 12. | 山形県立鶴岡養護学校 | ☎0235-24-5959 | 〒997 | 鶴岡市大塚町 5-44 |
| 13. | 東京都立青鳥養護学校 | ☎03-3424-2525 | 〒154 | 世田谷区池尻1丁目 1-4 |
| 14. | 東京都立中野養護学校 | ☎03-3384-7741 | 〒164 | 中野区南台3丁目 46-20 |
| 15. | 岩手県立花巻養護学校 | ☎0198-28-2421 | 〒025 | 花巻市太田 27-207-4 |
| 16. | 京都市立白河養護学校 | ☎075-771-5510 | 〒606 | 左京区岡崎東福川町 9 |
| 17. | 京都府立桃山養護学校 | ☎076-621-4208 | 〒612 | 伏見区桃山町遠山 50 |
| 18. | 石川県立小松養護学校 | ☎0761-41-1215 | 〒923-01 | 小松市金平町丁 76 |
| 19. | 新潟県立高田養護学校 | ☎0255-24-6538 | 〒943 | 上越市寺町 1-15-44 |
| 20. | 大阪府立富田林養護学校 | ☎0721-34-1675 | 〒584 | 富田林市大字甘南備 216 |
| 21. | 島根県立出雲養護学校 | ☎0853-43-2260 | 〒699-08 | 出雲市神西沖町 2485 |
| 22. | 横浜国立大学教育学部附属養護学校 | ☎045-742-2291 | 〒232 | 横浜市南区大岡 2-31-3 |
| 23. | 兵庫県立播磨養護学校 | ☎0791-66-0091 | 〒679-41 | 龍野市揖西町中垣内乙 1352 |
| 24. | 和歌山県立きのかわ養護学校 | ☎0736-42-0415 | 〒649-72 | 伊都郡高野口町向島 101-3 |
| 25. | 愛知県立一宮東養護学校 | ☎0586-51-5311 | 〒491 | 一宮市大字丹羽中山1151-1 |
| 26. | 木下とも子 | ☎0439-54-7251 | 〒299-11 | 君津市北子安 6-12-8 |
| 27. | 大阪府立寝屋川養護学校 | ☎0720-24-1024 | 〒572 | 寝屋川市寝屋 2100 |
- 上記以外に、育友会には次の学校からもよせられています。
- | | | | | |
|----|------------|---------------|------|-------------|
| 28 | 大阪府立佐野養護学校 | ☎0724-67-2252 | 〒598 | 泉佐野市日根野375 |
| 29 | 大阪府立和泉養護学校 | ☎0725-45-9555 | 〒594 | 和泉市池上町755-1 |

『ぼくらの明日をとりもどす — 第1版 — 』後、次の学校からもよせられました。

- | | | | | |
|-----|--------------|---------------|---------|-----------------|
| 30. | 北海道立雨竜高等養護学校 | ☎0125-78-3101 | 〒078-26 | 雨竜郡雨竜町尾白利加92-21 |
|-----|--------------|---------------|---------|-----------------|

さらに、各学校から全国精神薄弱養護学校長会へ、そして全国養護学校長会から兵庫県精神薄弱養護学校長会に対しても多くのお見舞い、ご支援、義援金等が届いたとお聞きしております。

全国の皆さんありがとう。阪神養護学校の児童生徒も保護者も教職員も不死鳥のごとくよみがえっています。どうかご安心ください。

IV 振り返って

1. 写真で見る被害の状況

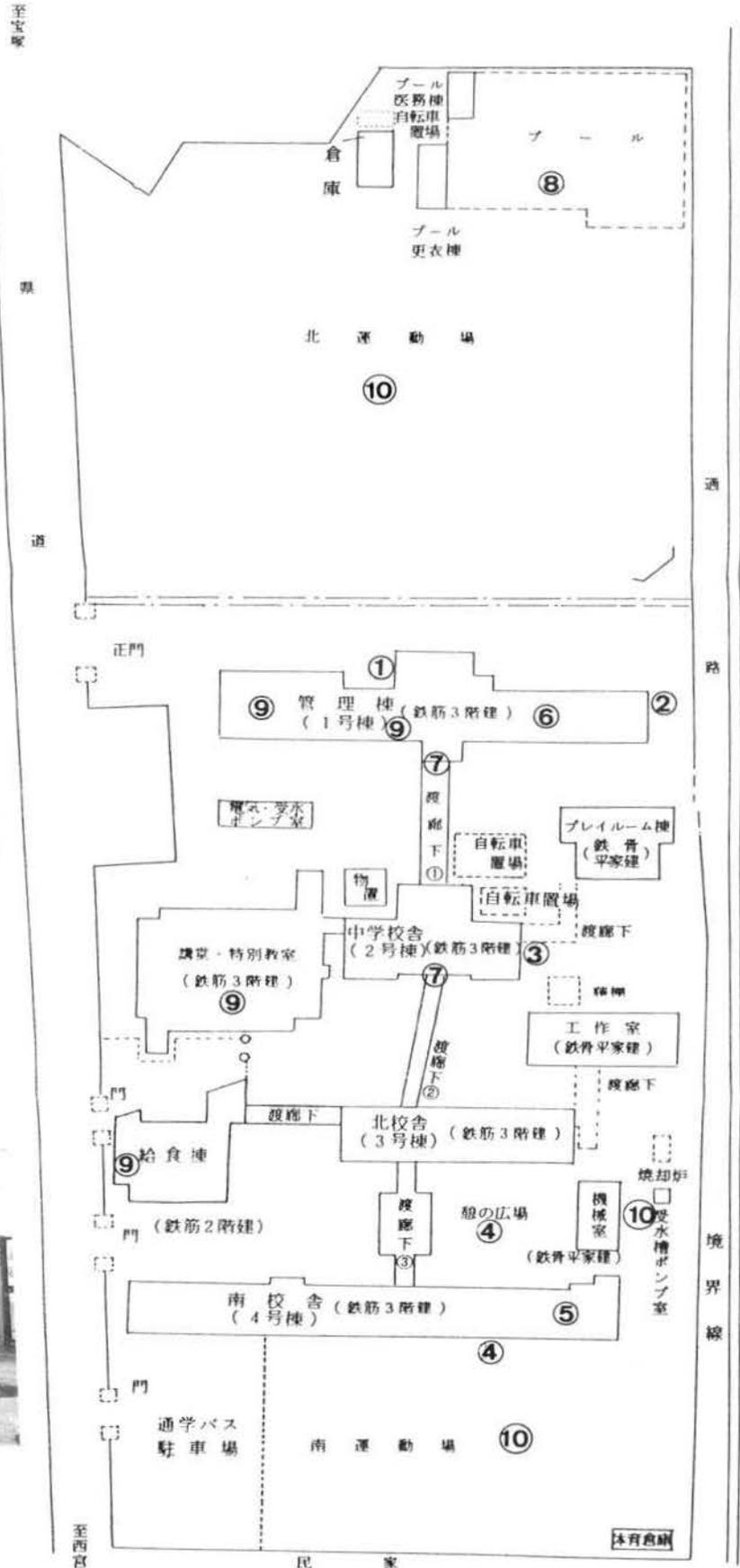
1.17「その日 学校は ……」



焼却炉の煙突
武庫川沿いの道へ
くずれ落ちる



給食棟南の門扉
上部のかけ金で
倒れずに止まる。



① 正門から1号棟玄関へ



地下の配水管に沿って
地割れ、そして段差



北運動場までの舗装部分には
亀裂がそこここに……



外から見た玄関



玄関内は展示ケースが転倒

② 1号棟周囲(20cm以上地盤沈下)



1号棟西側職員室横



1号棟南側



1号棟南側畑

ブロック1個分地中にもぐる
しかし、春には玉ネギが豊作



校舎と地面の間に大きなすき間



1号棟南側角



1号棟北東角

③ 2号棟周囲（10cm以上地盤沈下）



2号棟北側
コンクリートの側溝のふた
がずれ落ちる



2号棟南側
大きな地割れができる



自転車置き場付近

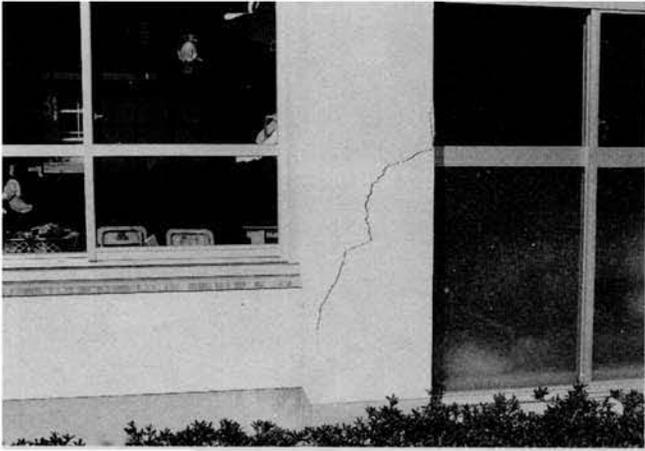


2号棟南側扉
コンクリートがめくれ上がり
開かなくなる



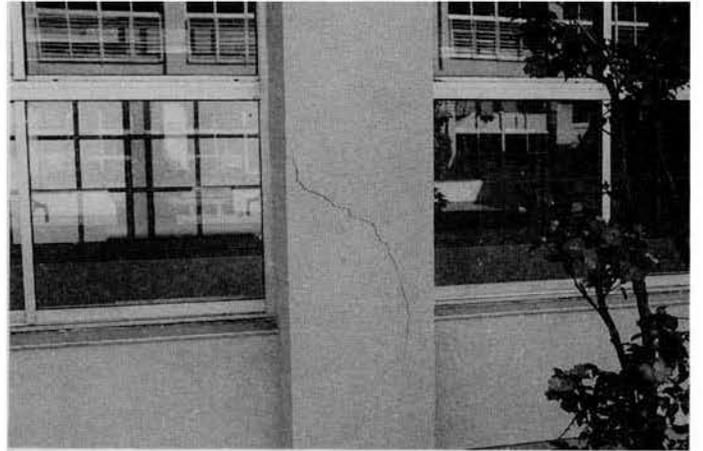
2号棟北東角

④ 3・4号棟周囲（校舎にクラックが）

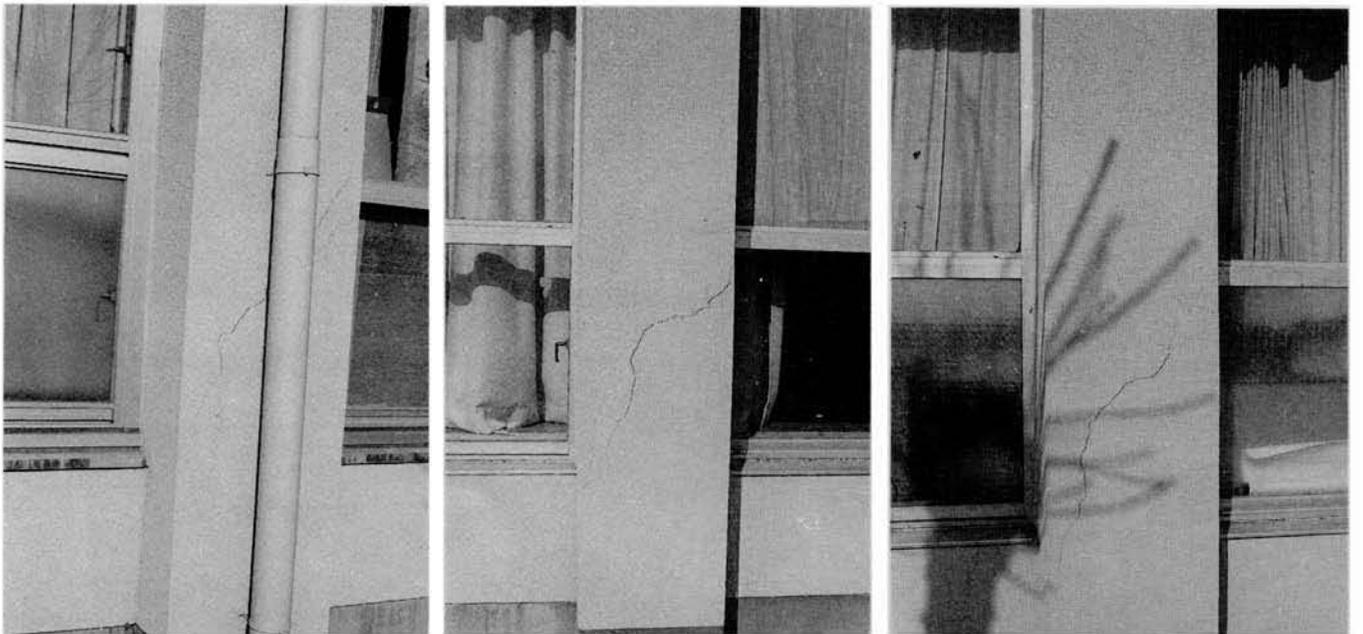


3号棟南側

3号棟の柱は概ねクラックが入る
3号棟屋上の給水槽は後日、破裂する



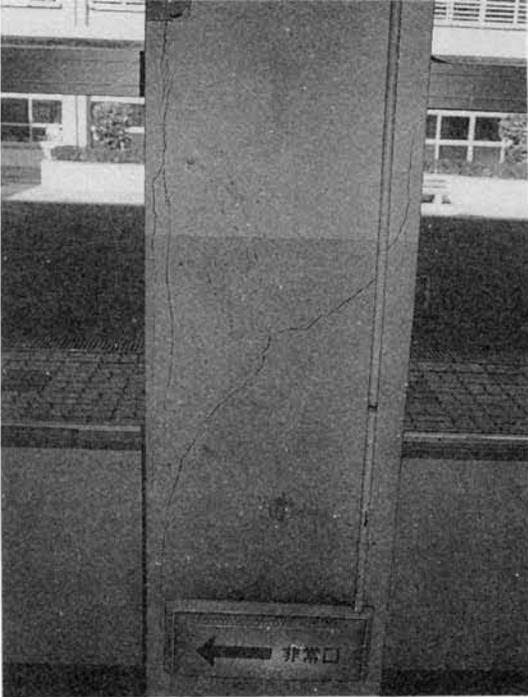
4号棟北側



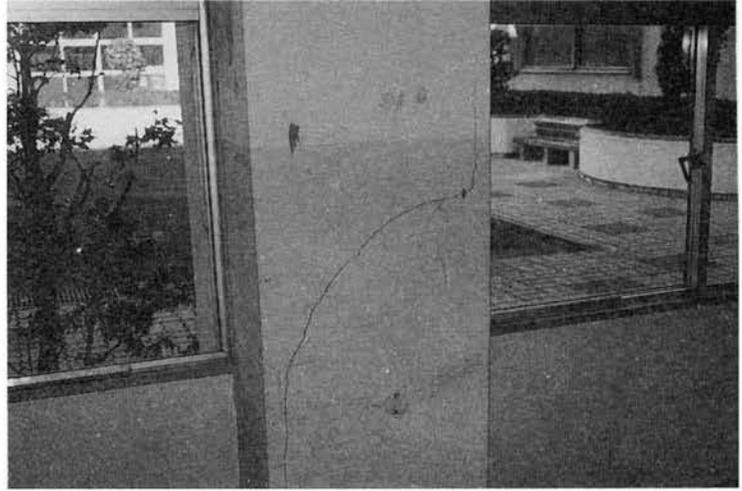
4号棟南側の柱

これらのクラックは余震の為に更に亀裂がひろがっている

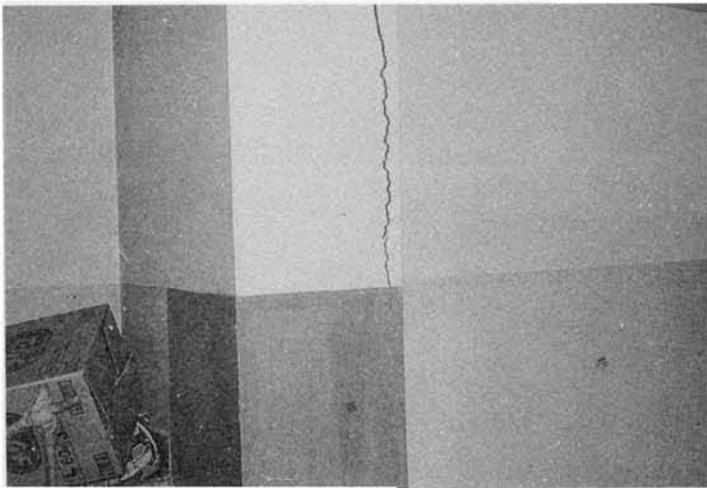
⑤ 4号棟校舎内（3号棟も同様のクラックが）



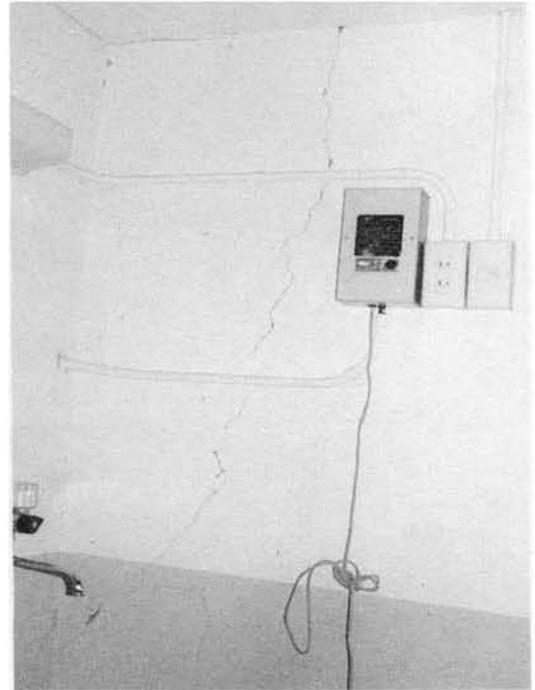
1階北側の柱



1階北側の柱



2階廊下東側の壁面



シャワー室の壁面

ともに余震で更に割れが進んでいる

⑥ 1号棟1階校長室（大金庫も倒れる）



書棚の中のものが散乱する



応接机の上にロッカーが……



大金庫を復元するには多人数を要する

⑦ 4つの校舎は2階部分が渡り廊下でつながっているが……



体育館とのジョイント部



防火扉は概ね閉まっている



3号棟のジョイント部
10cm以上陥没している

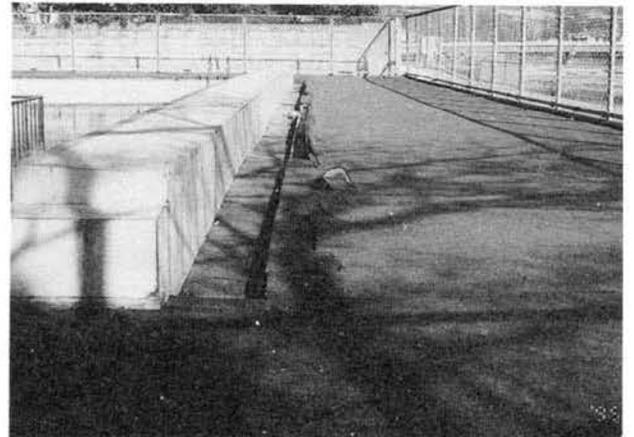


2号棟北側1階
下から上の廊下が素通しに見える

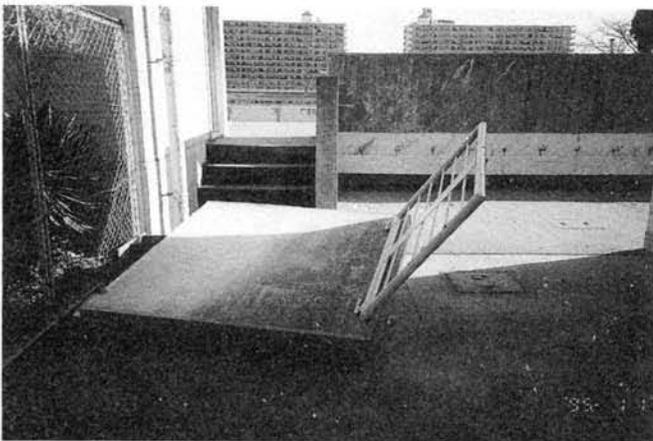


アルミ製のおおいのはじけ飛ぶ

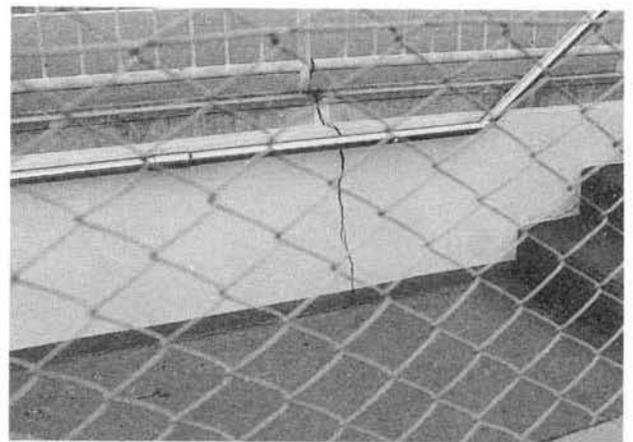
⑧ 本校北端のプールは………



プールサイドやプール内部に亀裂が入る



コンクリート製の壁が倒れる



洗体槽にも亀裂が入る

- プールは全体にゆがみ南東部が下がる
- 水道の復旧まではプールにに残る水を汲み出してトイレ等に使う
- 後日、水道復旧後プールへの給水装置の故障が判明し、水泳指導が1学期中しか出来ないことになる

⑨ 教室はことごとく被災し、児童生徒の作品などにも被害が……それ以外の部屋も！



給食棟職員控え室
ロッカーがおり重なって倒れる



1号棟1階職員室
机が大きくずれて物が散乱する



1号棟1階事務室
端にあるコピー機が大きく動く



2号棟1階高等部養訓室
コンピュータ等の機器も転倒する

⑩ 運動場や校舎周囲の地面に亀裂



北運動場には亀裂があちこちに
後日、雨が降り、全体に傾きが
でたことがわかる



ポンプ室横にも
長くて大きい亀裂



南運動場には不思議な跡が

2. 新聞報道から



出張授業でダンスを楽しむ子供たち(三田谷学園で)

養護学校が出張授業

4 公民館など
か所

渋滞で通学困難

兵庫県西宮市の県立阪神養護学校(小林庶良校長、二百七十七人)の教師たちが、阪神大震災による交通事情の悪化で通学できなくなった知的障害児のために、出張授業をしている。保護者と協力して公民館など四か所の分教室を確保した。避難所や自宅に閉じこもっていた児童、生徒たちは、先生と一緒に歌ったり遊んだりして、ようやく落ち着きと笑顔を取り戻している。

同校では「子供たちを元気づけるために」と、一日も早い授業再開を目指した。しかし、全員がスクールバス七台で登下校しており、ネックになったのが交通事情。震災による渋滞で、ふだんなら遠い所でも一時間しかかからないのに、四時間がかかりの地域もある。乗車中の体調などの問題もあって、これまでのような送迎は不可能とわかった。

そこで教師たちが知恵を出し合ったのが、地域ごとに分教室を設けての出張授業だ。尼崎では保護者が市などと交渉して二か所の公民館を確保し、西宮や芦屋では避難所の体育館や福祉施設を借りることにした。授業再開は今週初めで、疎開組などを除き、約百人が分教室に、保護者が送迎する約三十人は同校に通い始めた。

分教室の一つ、芦屋市楠町「三田谷学園」では、午前九時から正午まで約二十人が出張授業を受けている。教師は九人で、三木市から四時間かけて出勤する女性教諭もいる。音楽に合わせたのリズム体操やダンス、絵かきなど、まだ簡単な内容だが、子供たちは大喜びだ。施設の新館三階は被災者の避難所になっており、庭で体操する子供たちの歓声が誘われ、気晴らしと一緒に体を動かす被災者もいる。

「避難生活でストレスがたまっていた子供にも、やっとな笑顔が戻ってきた」と先生たち。自宅が断水している久下嘉津子教諭五七は「早く、広いグラウンドで思い切り走り回らせてあげたい」と話している。

(1995年(平成7年) 2月3日付 読売新聞より)

再開された給食に喜ぶ養護学校の子供たち

給食



教室に元気な声

簡単メニューに「おいしいね」

阪神養護学校

西宮市田近野町の県立阪神養護学校で十六日、給食が再開された。まだ水道、ガスが復旧していないので簡単なメニューだが、子どもたちは「おいしいね」「おかわりはないの」と、先生や友達と一緒に食べて大喜びだった。
パン、牛乳、ソーセージ、ミカンと、温かいものはなかったが、友達のミカンを横取りする子もあり、教室に元気な声が響いた。
同校は震災後、生徒の多い四つの地域に教師を派遣して、授業を行ってきたが、スクールバスによる送迎のめどが立ったため、九日から運行を再開。全校生徒二百七十人中約二百人が登校できるようになった。

再

開

被災地の障害者笑顔戻る

「亡き仲間のために頑張る」
西宮 名神あけぼの園などで作業



作業を再開した障害者たち

阪神大震災で閉鎖状態だった西宮市内の知的障害者の授産施設五か所が十六日までに、相次いで作業を再開、働く障害者らに明るい笑顔が戻り始めている。

通園していた一人が震災で亡くなった西宮市津門大で亡くなった西宮市津門大の授産施設五か所が十六日までに、相次いで作業を再開、働く障害者らに明るい笑顔が戻り始めている。
同園の山口喜八郎課長補佐は「友達を亡くしたことでみんな傷ついていた。残された障害者らに、それを乗り越えていくためのサポートが必要。これから社会復帰を果たす手助けをしたい」と話し、衣などのクリーニングやお

授産施設

5か所で出張授業

抜け道でバス送迎

先生の頑張り結実

阪神養護学校



ようやく校舎に子供たち
の笑顔と歓声が戻ってきた。大震災から一か月が過ぎたが、ハンデを背負いながら被災した子供たちには長い時間だった。ようやく春の訪れが感じられるようになった今、先生たちの頑張りが実を結んできた。

西宮市田近野町の県立阪神養護学校(小林庶良校長)。阪神間の知的障害を持つ小学校から高校までの

出ようになった。

教職員の対応は素早かった。子供たちの安否を確認するため、その日のうちから地図を頼りに、ミニバイクや徒歩で各家庭を訪ね歩いた。ほぼ全員の所在を確かめるのに、三日間かかった。学校をいつから始めるか。少しでも早い再開が望ましい、と意見は一致したが、最大のネックは交通機関。いつもはスクールバス

り、尼崎(二か所)、西宮、芦屋、宝塚の計五か所での授業が始まった。先生たちは各自、通える所に出勤。中には四時間かかるとの女性教諭もいたが、久しぶりに見る子供たちの顔に、疲れも吹っ飛んだ、という。

「早く広い校庭を走り回らせてあげたい」と、学校の取材の時、大人の姿しかなかった学校は、徐々にいつもの姿に戻りつつある。先週から新入学の手続きも始まった。「次の話題は何かな」。復興を肌で感じられる取材は、私の喜びでもある。

の通学だが、乗っている時間は一時半が限度。震災の混乱の中での交通事情はとも無理。

「私たちが通えばいい」。だからともなく声が上が

本格登校が再開

(社会部・正田和也)

県立西宮病院前の茂松寺境内の大クスが震災に耐え、残っているとの記事(二月三日付第二社会面)

を読んで、ただ懐かしく会いたくて、激震で無残に変わった街を、茂松寺目指して歩いた。そして、見えた。天を仰いで堂々と枝葉を広げたあの



大クスがそこにあったのだ。

境内の本堂は大屋根もろとも地面にひれ伏すように崩れ落ちているのに、大地と共に激しく揺れたはずの大クスが、十六年前と同じ圧倒的な存在感を持って黙

って立っているではないか。こみ上げる懐かしさに、思わず私は両手を合わせて大クスを拜んでいた。

十六年前、あの病棟の窓から、一体何百回この樹と無言の交信をしたことだろう。当時誕生したばかりの

大クスに祈り再び

初めての我が子はダウン症だった。重度の心臓病を患って超虚弱の、今にも消え入りそうな小さな命のかたまりだった。

人間の寿命の何倍も大地に根を張って生きているあなた、ほんのわずかでいい、その生命力をこの子に

お与え下さいと、窓辺で祈

った私自身の姿が、十六年の歳月を隔ててよみがえってくる。息子はあるとき、

この大クスの命を窓ガラス越しにもらって八時間の心臓手術に耐え、生を勝ち得たのだった。

そして今また、私

は祈る。激震のエネルギーさえも包み込

んだたくましい大クスよ、十四歳の時に新たな難病を発病し、日々を送る息子に生きる力を届けてほしい、と。私の祈りの原点に大クスは生き続けた。

宝塚市

相崎 美知子

主婦・44歳

(1995年 3月18日付 朝日新聞より)

大震災の被害と本校のバス路線

